

別置

新撰雜記
堂款
三

437
444
3



新撰大工雜歌卷三目錄

东舍堂

三间四面堂

大庫裡

舍堂

戒壇堂

儀堂

設堂



大工雜歌

卷三

目錄

七間四面堂

瑞藏堂

法堂

金堂

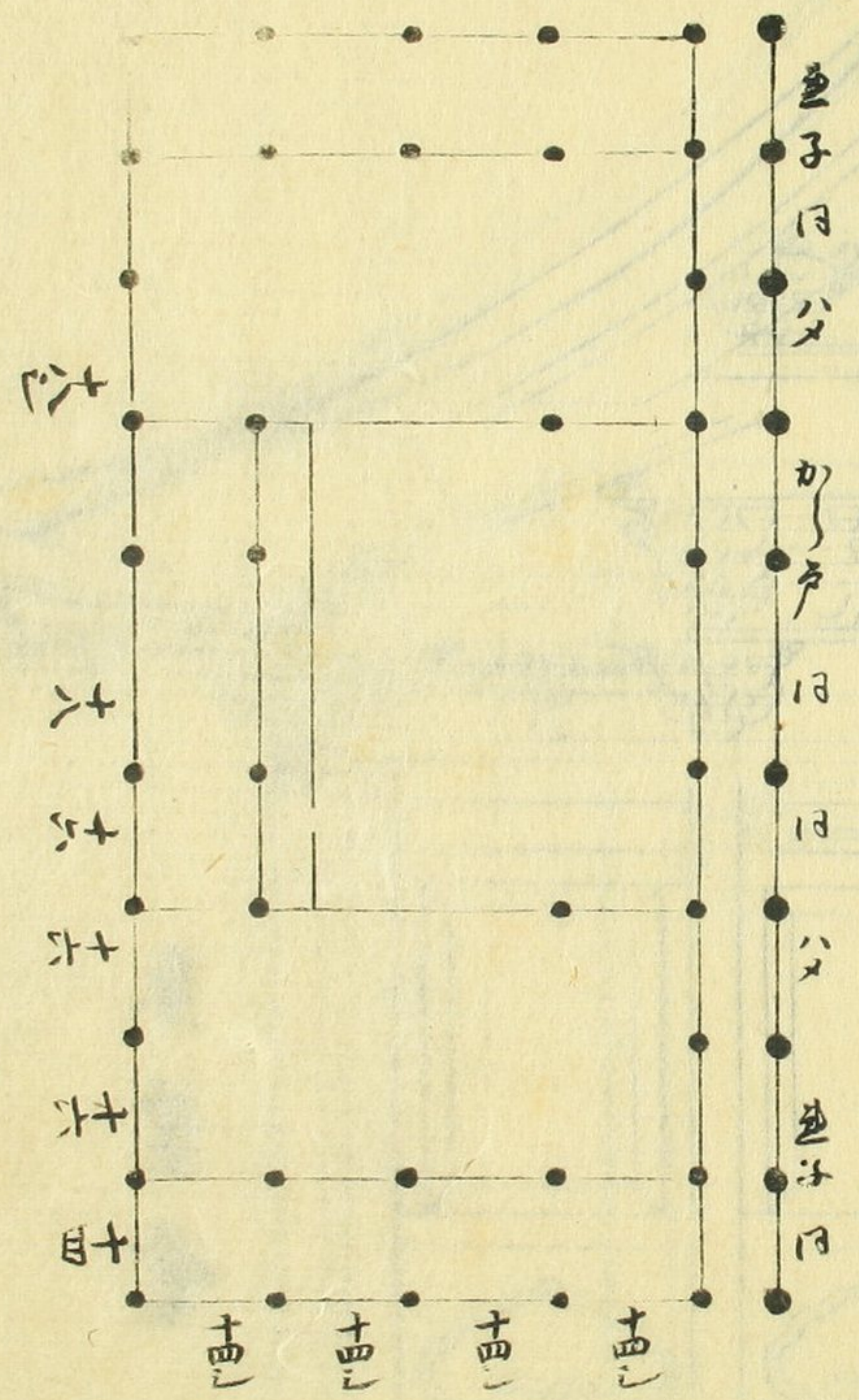
大藏所

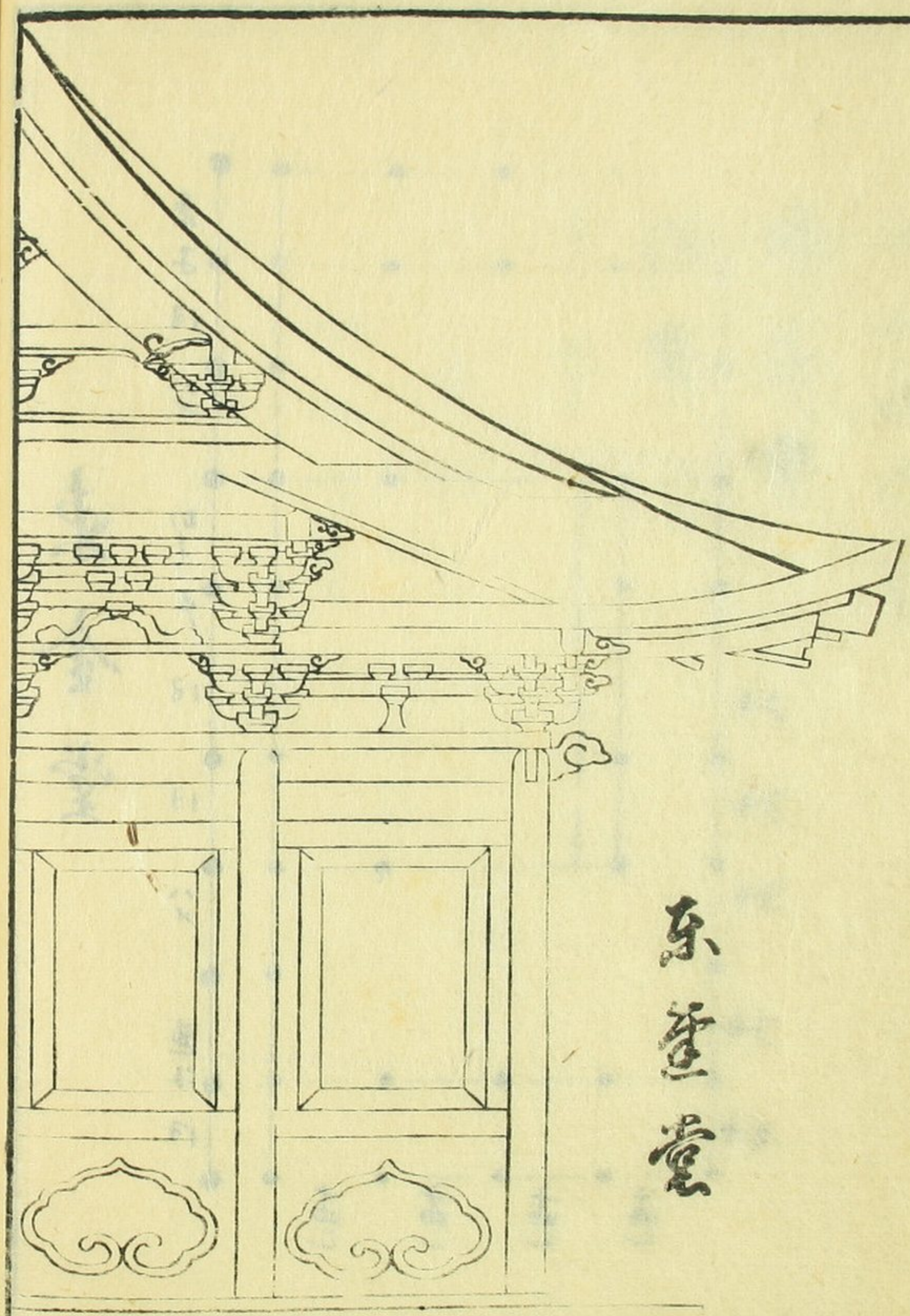
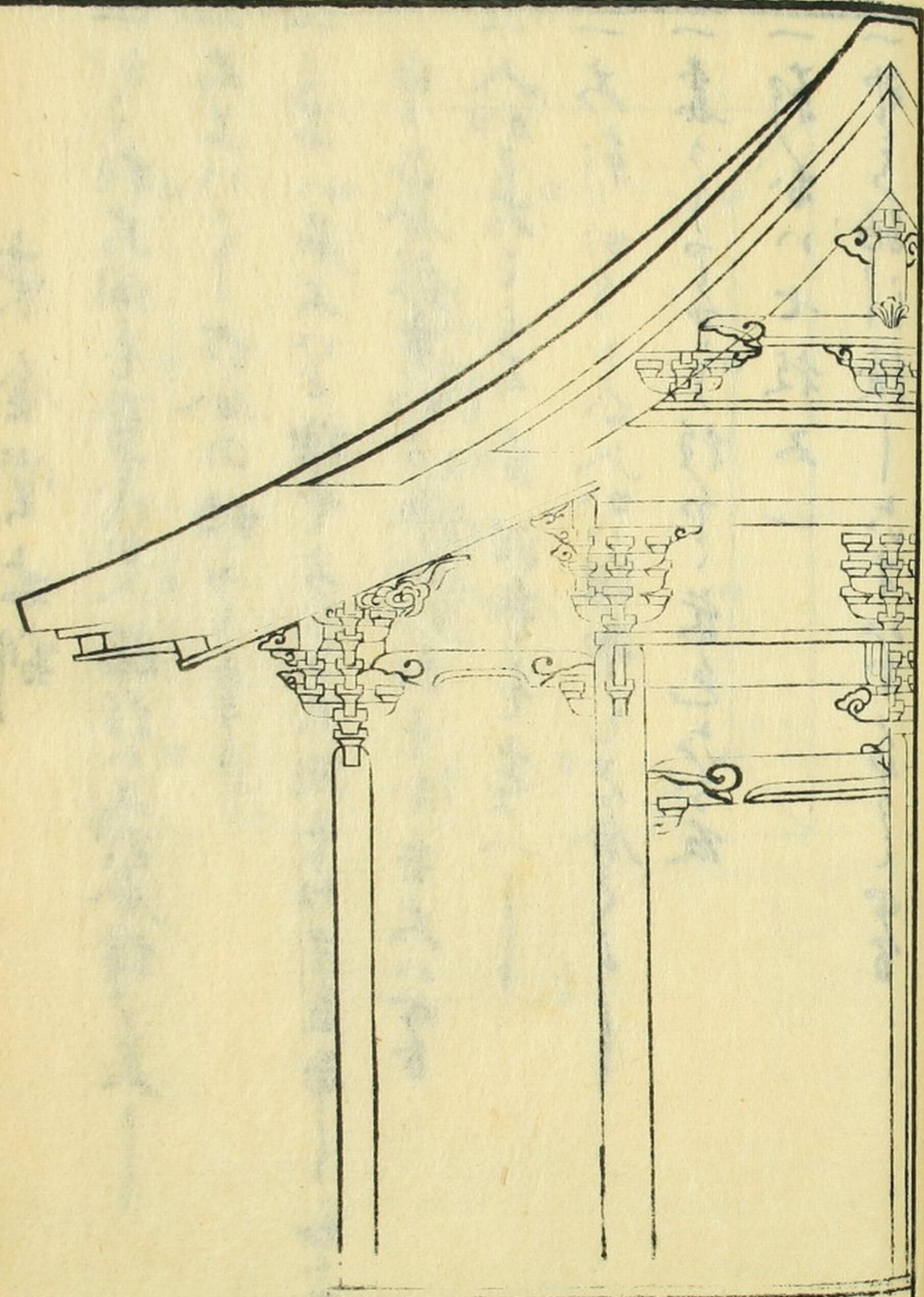
三回廊

長合堂

大工類刊 卷三 七間四面堂

東金堂

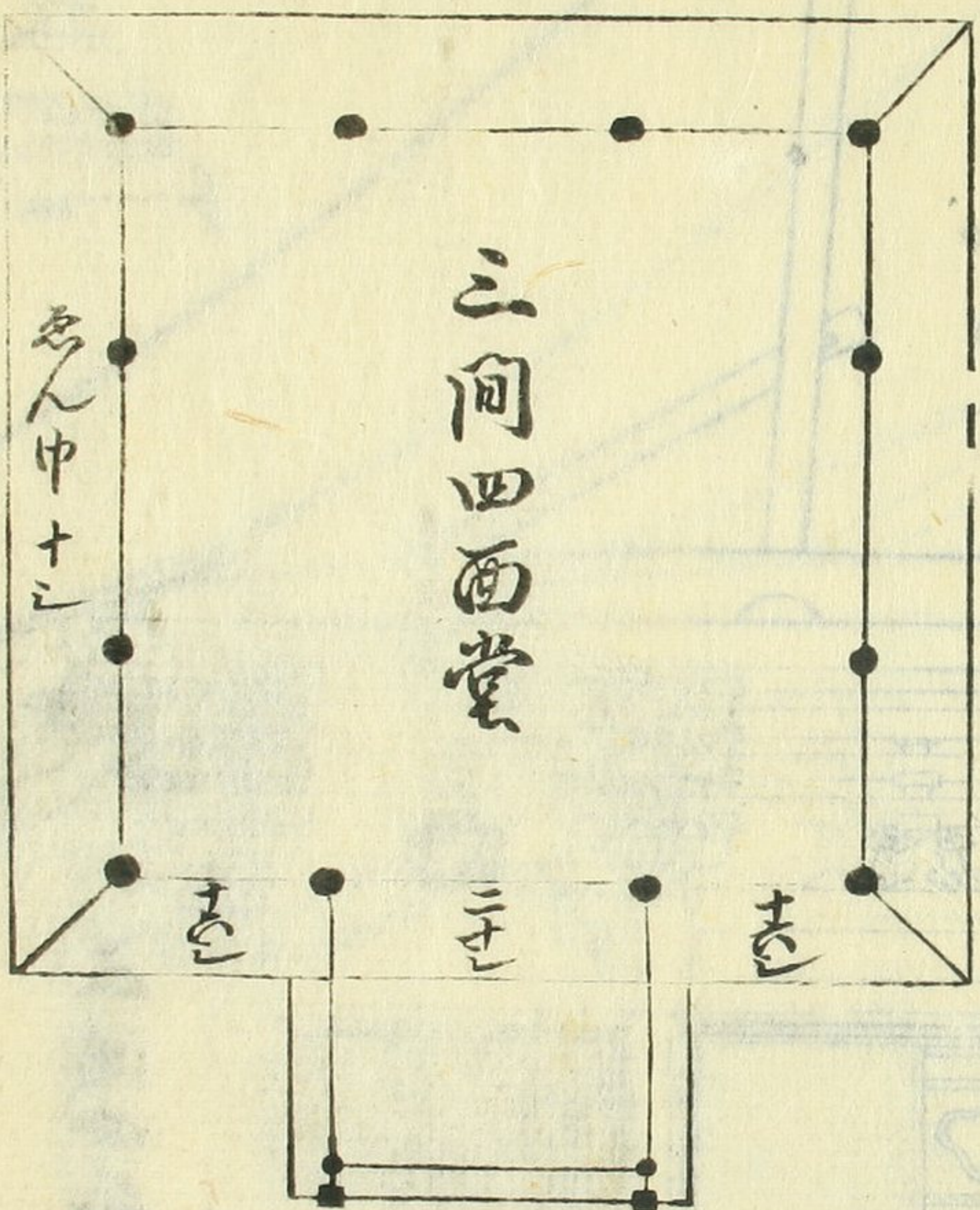




东蓬堂

東金堂本割

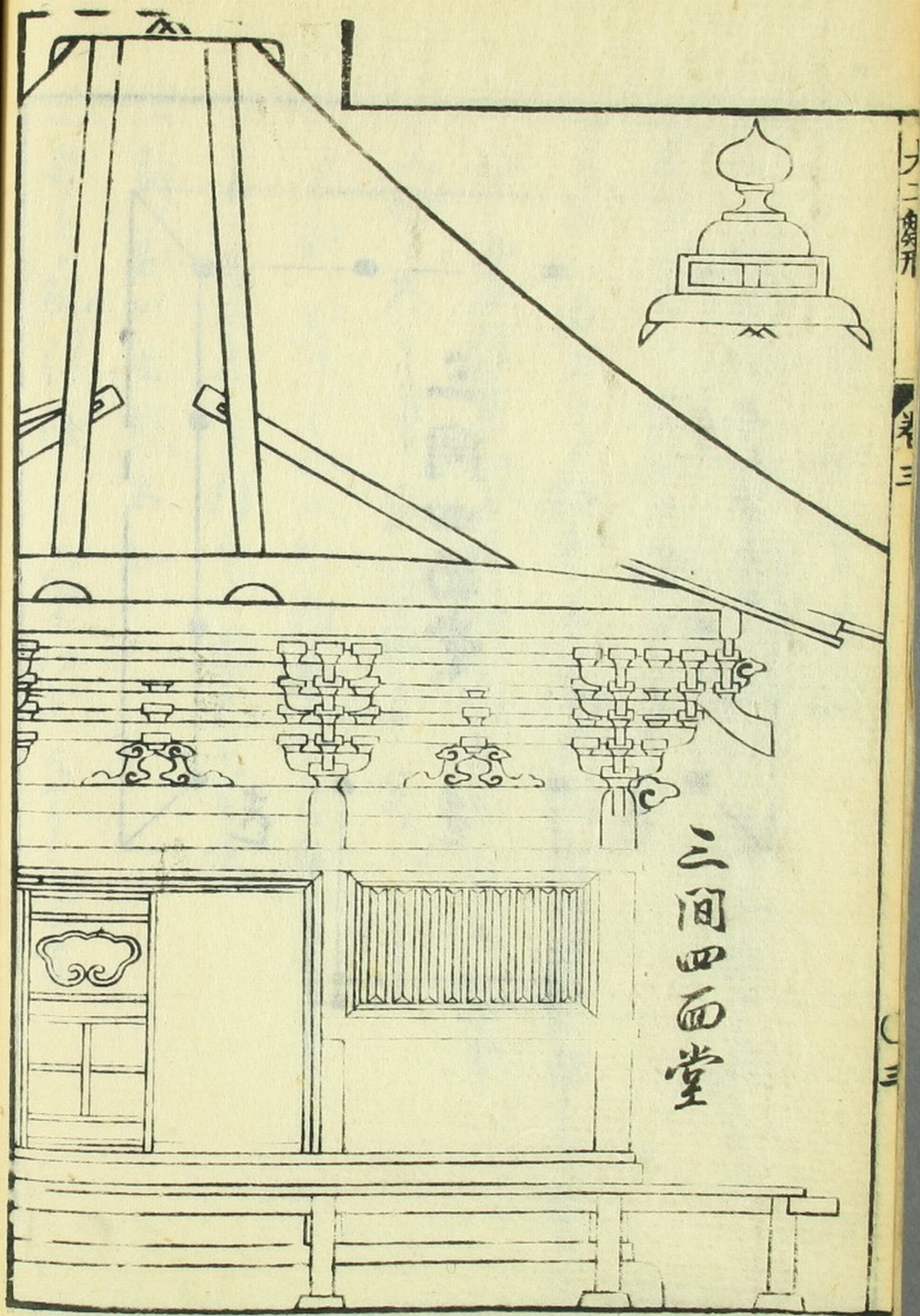
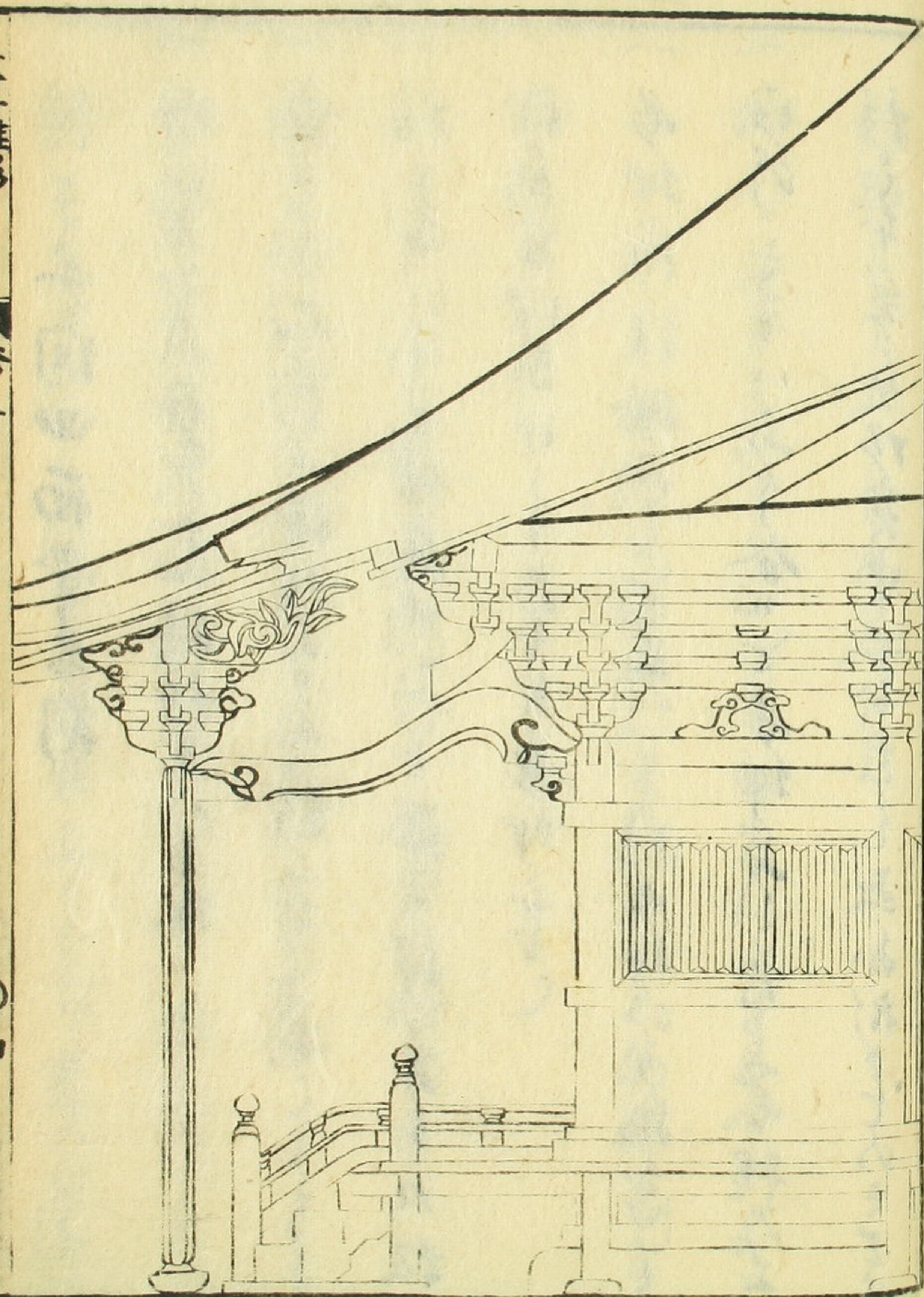
- 一 此は柱大間と三間を以て入構柱のみ式分増とす
- 一 右より一六分の地よりあり
- 一 三間ハ右より柱上よりと大間より柱上より一三間ハ
- 一 中より分増の分取の柱を以て柱大間の
- 一 入が二六分の三間ハ柱上よりとす
- 一 右新の柱より入が柱上よりとす
- 一 妻より一六分の柱上よりとす
- 一 新の柱より七柱とす
- 一 此より配引後一六分の分増とす



大正維多

卷三

三



二間四面堂

三回四面堂本割

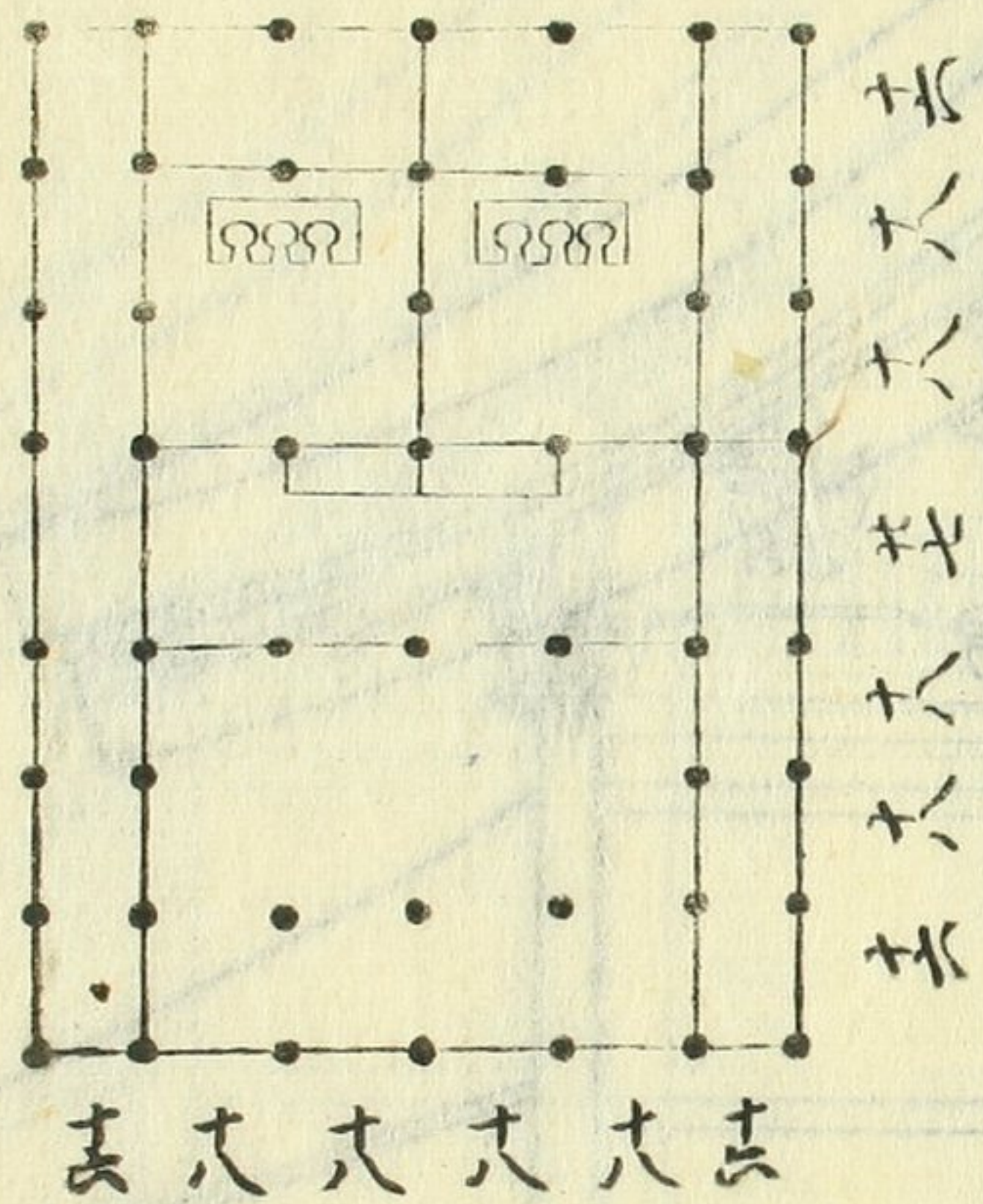
一 柱をふた末の角に白群柱をいふ取
 一 座をうへの上の縁板をうへ柱をいふ縁に龜くくして
 柱をわけて地盤をいふ縁のけり、ふた板
 式を半はなけり、ふた板を長押をいふ
 一 長押は拾六と云ふ、一日を押さる縁をけり
 けり、ふたのふたの分と長押をいふ、ふたの押は上
 柱をいふ、ふたの角中をいふ、是をいふ、ふたの柱をいふ、ふたの

細物より上をいふ、ふた

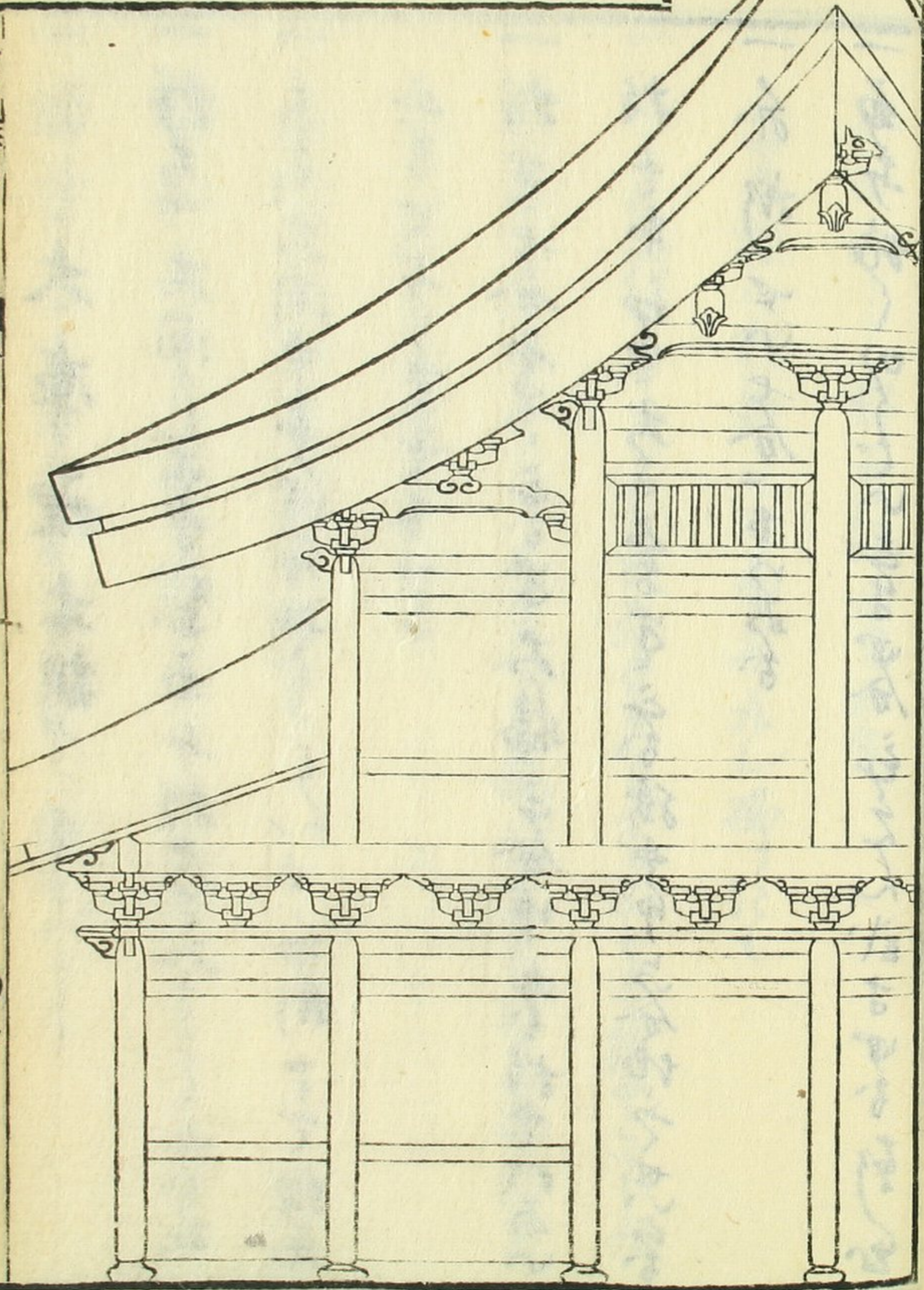
一 地乃をいふ、ふたの角中をいふ、是をいふ、ふたの柱をいふ、ふたの
 一 六の六、白物をいふ、ふたの角中をいふ、是をいふ、ふたの柱をいふ、ふたの
 一 白群の角中をいふ、ふたの角中をいふ、是をいふ、ふたの柱をいふ、ふたの

一 世をいふ、ふたの角中をいふ、ふたの角中をいふ、是をいふ、ふたの柱をいふ、ふたの
 一 家盤をいふ、ふたの角中をいふ、ふたの角中をいふ、是をいふ、ふたの柱をいふ、ふたの
 一 割をいふ、ふたの角中をいふ、ふたの角中をいふ、是をいふ、ふたの柱をいふ、ふたの

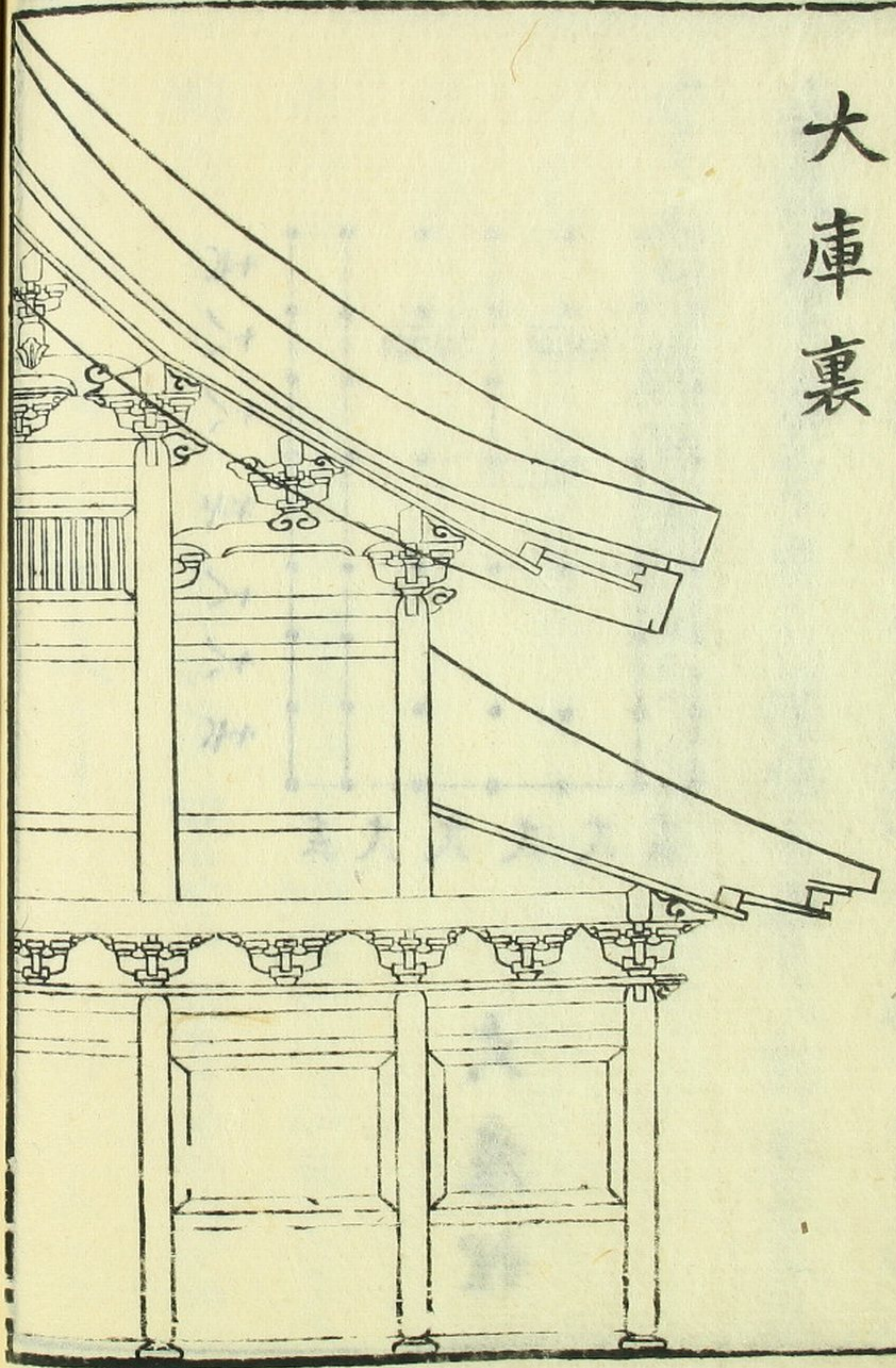
高きハ覆物ニ谷一法係る事如く是らに
 多殊方ハ家内何れ酒味を以りニ割る事
 中ニ之れ情を以りて



大原裡



大庫裏



大庫裡本割

- 一 柱太舟 大間しきやぶ式家取舟柱太舟入りしき九分五
- 一 ちんちん 大間中事取舟柱太舟入りしき九分五
- 一 五五とちんちん 舟下りしき
- 一 柱費七分厚しきやぶ 大端三分中舟柱費はわい
- 一 柱太舟 舟太舟入りしきやぶ 舟柱費中舟柱太舟入りしき
- 一 舟太舟 舟太舟入りしきやぶ 舟柱費中舟柱太舟入りしき
- 一 舟太舟 舟太舟入りしきやぶ 舟柱費中舟柱太舟入りしき
- 一 舟太舟 舟太舟入りしきやぶ 舟柱費中舟柱太舟入りしき

五之六— 野々記四寸五分

一 舟太舟の枝無ししきやぶ 舟柱費はわい

一 舟太舟の枝無ししきやぶ 舟柱費はわい

一 舟太舟の枝無ししきやぶ 舟柱費はわい

舟太舟の枝無ししきやぶ

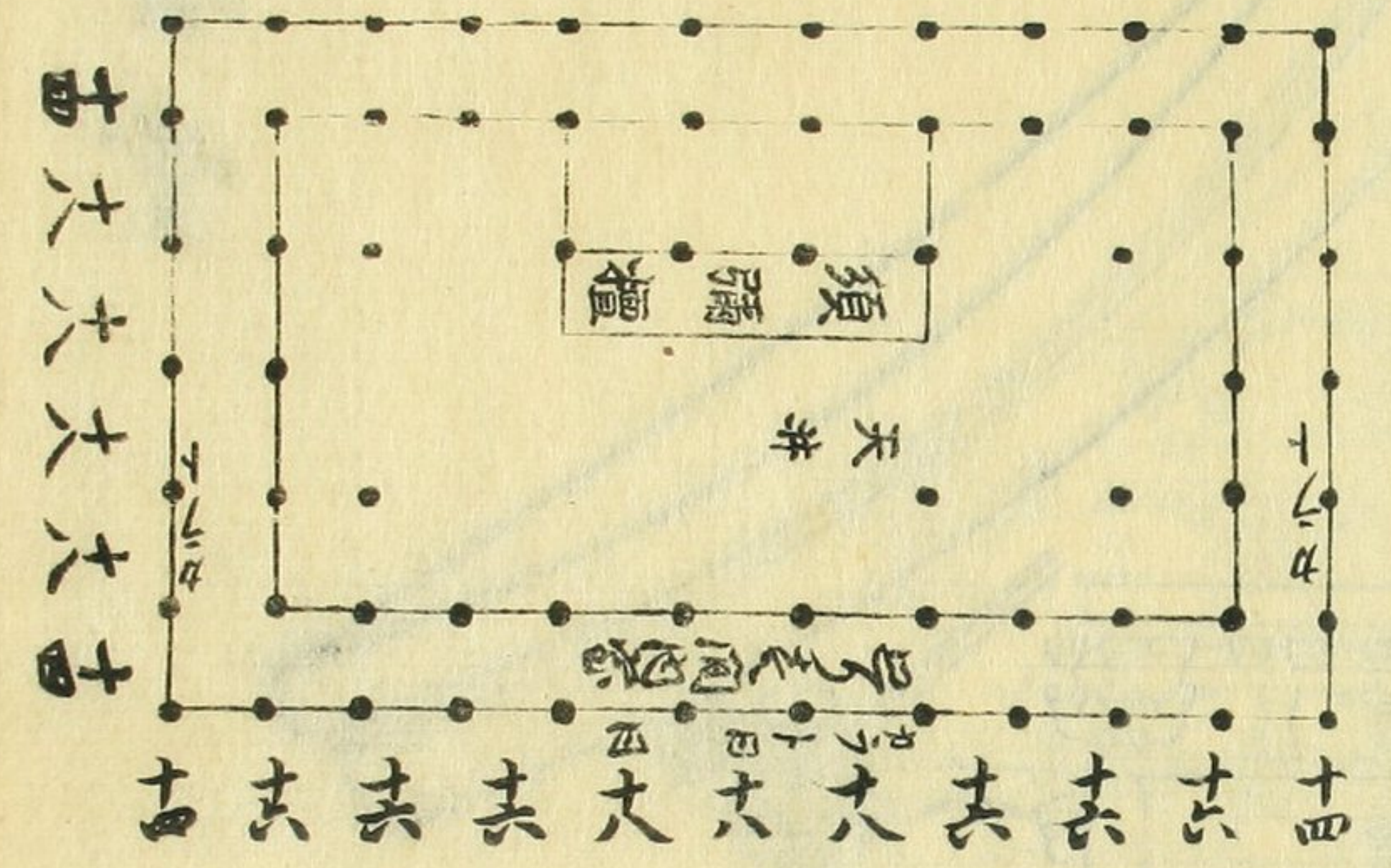
一 舟太舟七分二下いみかあり

一 破風舟入りしきやぶ

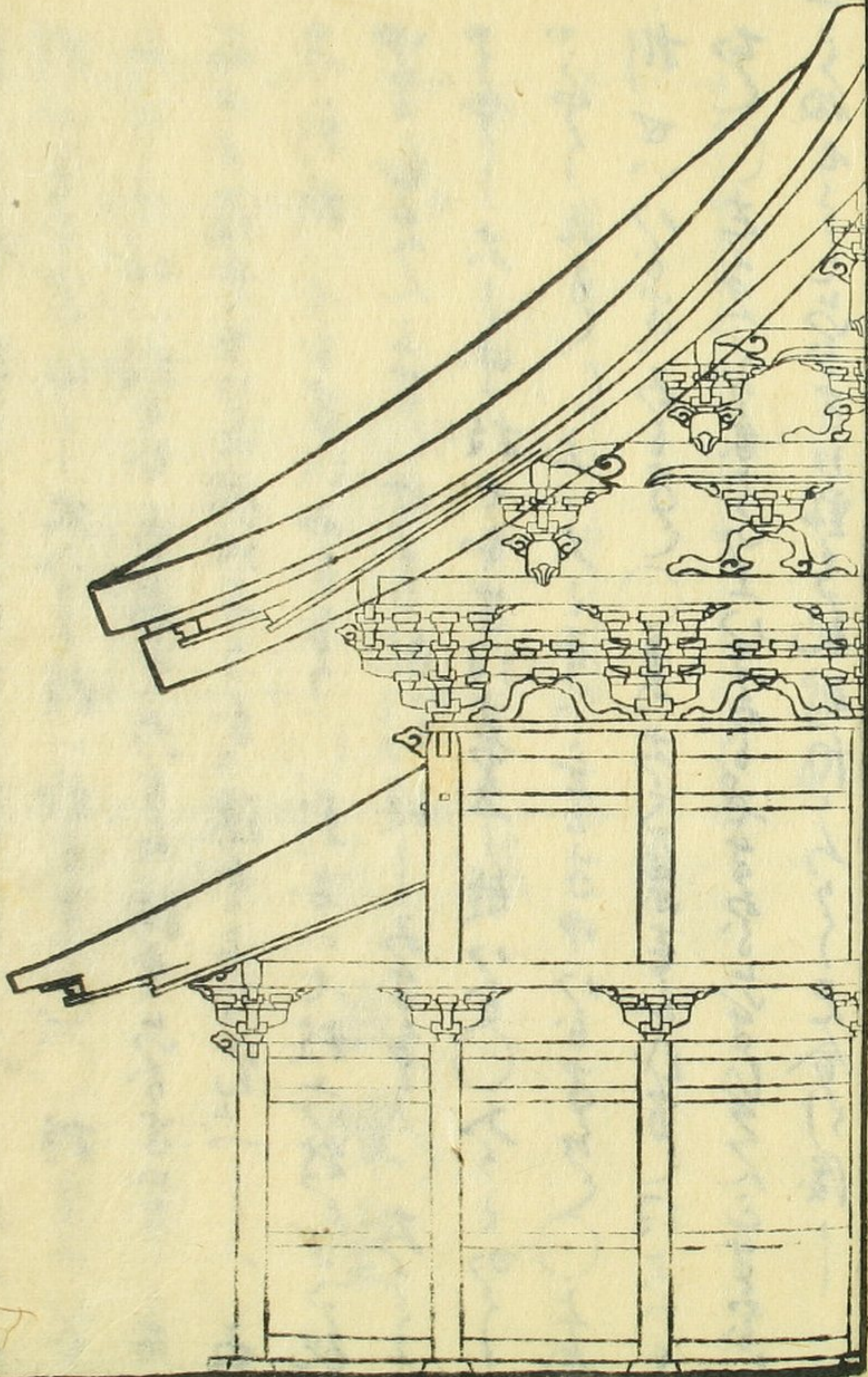
一 腰貫舟入りしきやぶ 舟柱費はわい

一 かしらふらのほら河本下り程
 一 橋くささのいさくちと上りよりと下り組物
 五 同谷寺

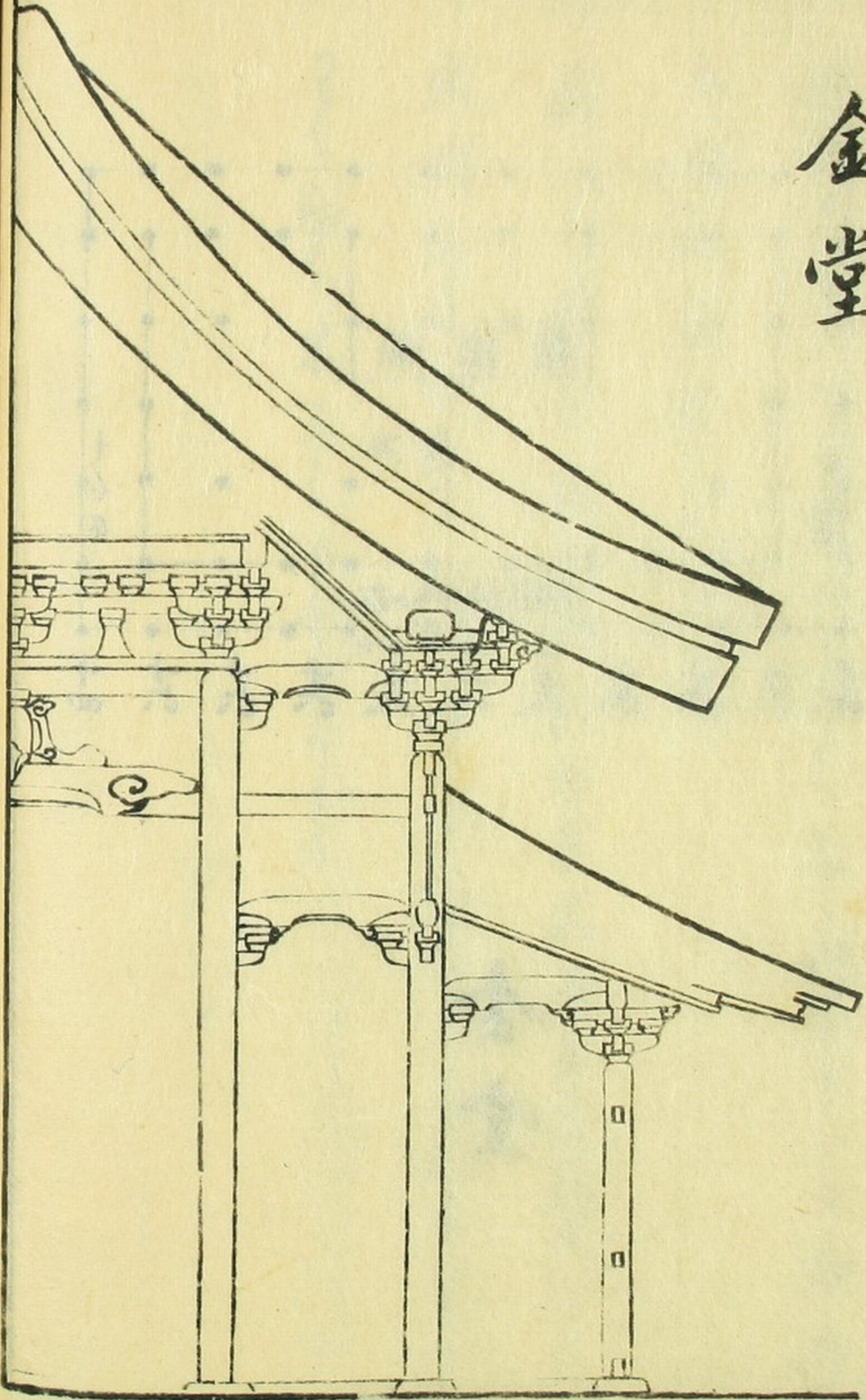
一 扉ハツ茶方友あか、武お茶大間をまの武片とく
 大間ありかきん、御中きことそくくんと下り
 一 橋くささのいさくちと上りよりと下り組物

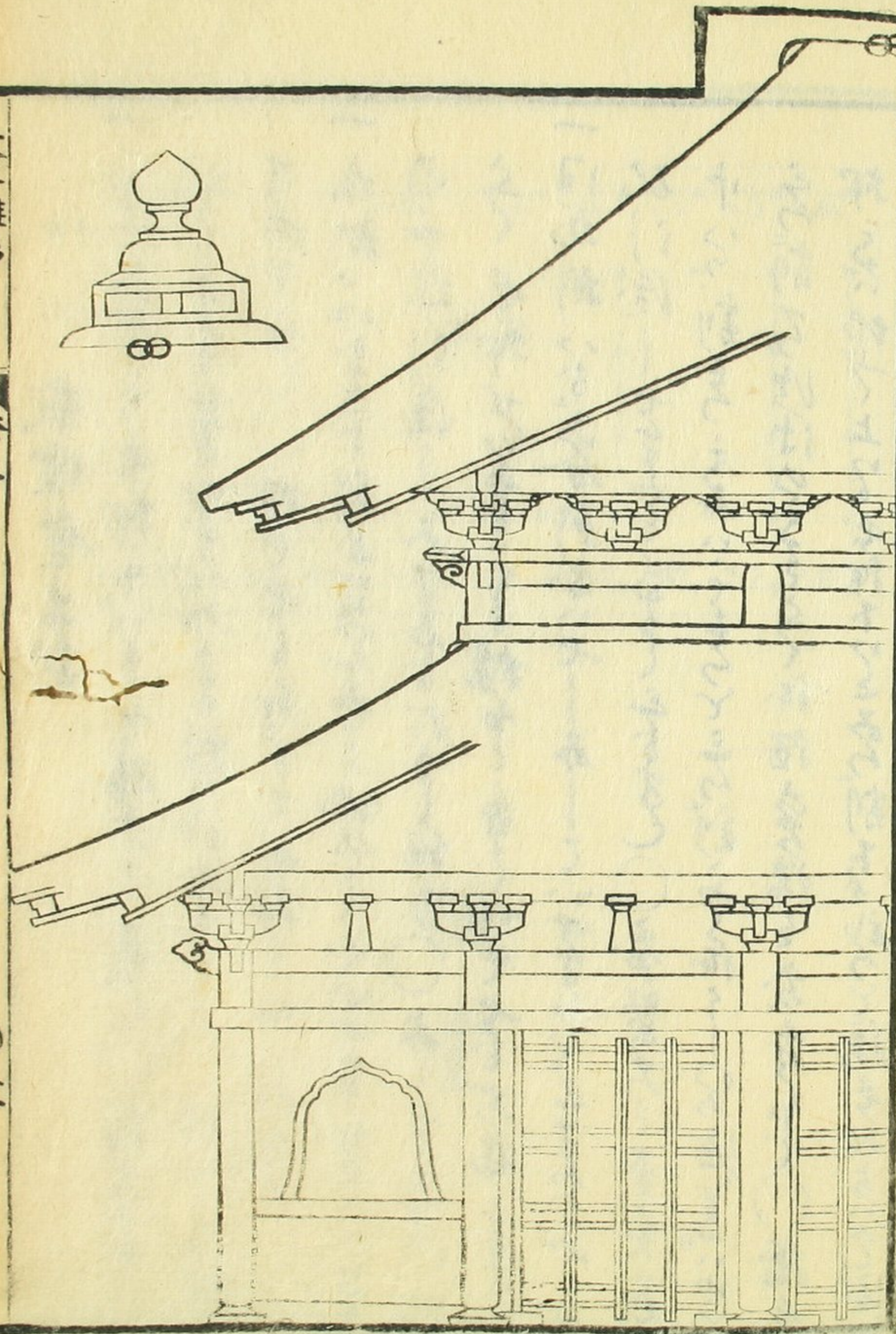
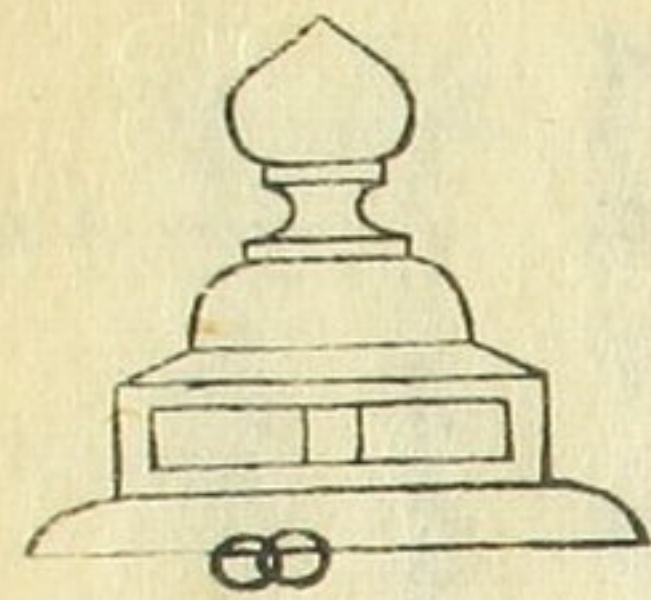


金堂

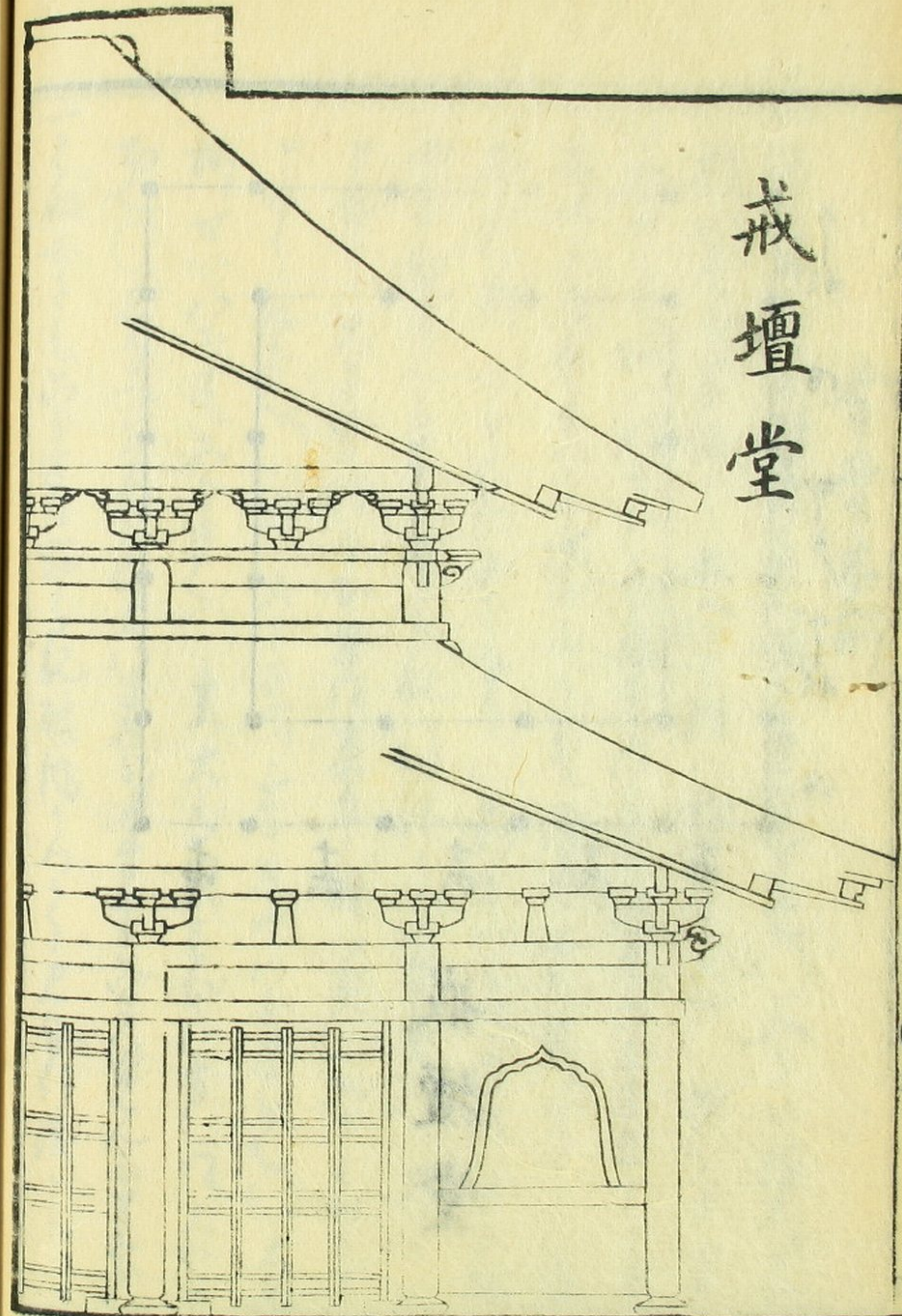


金堂



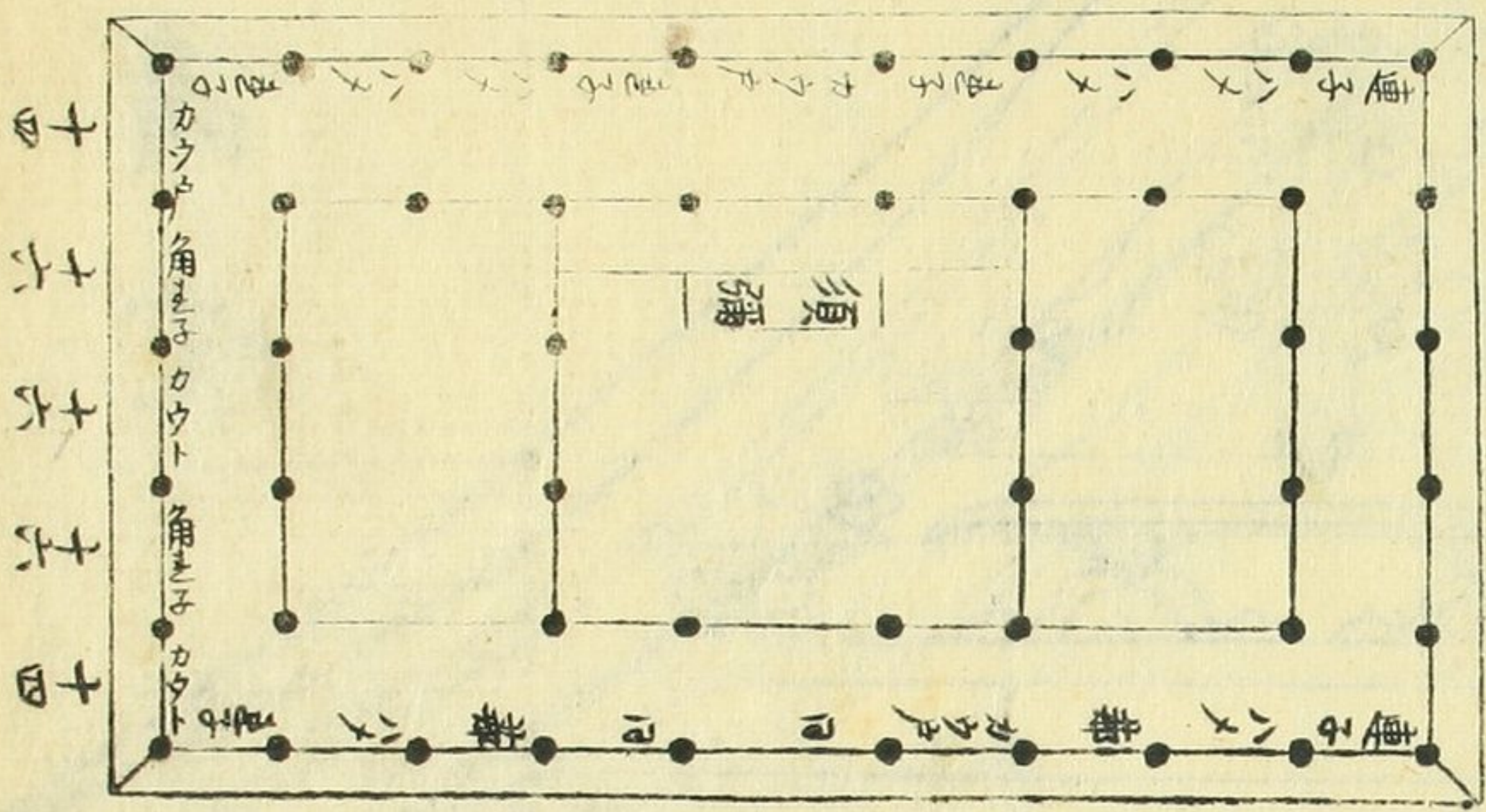


戒壇堂



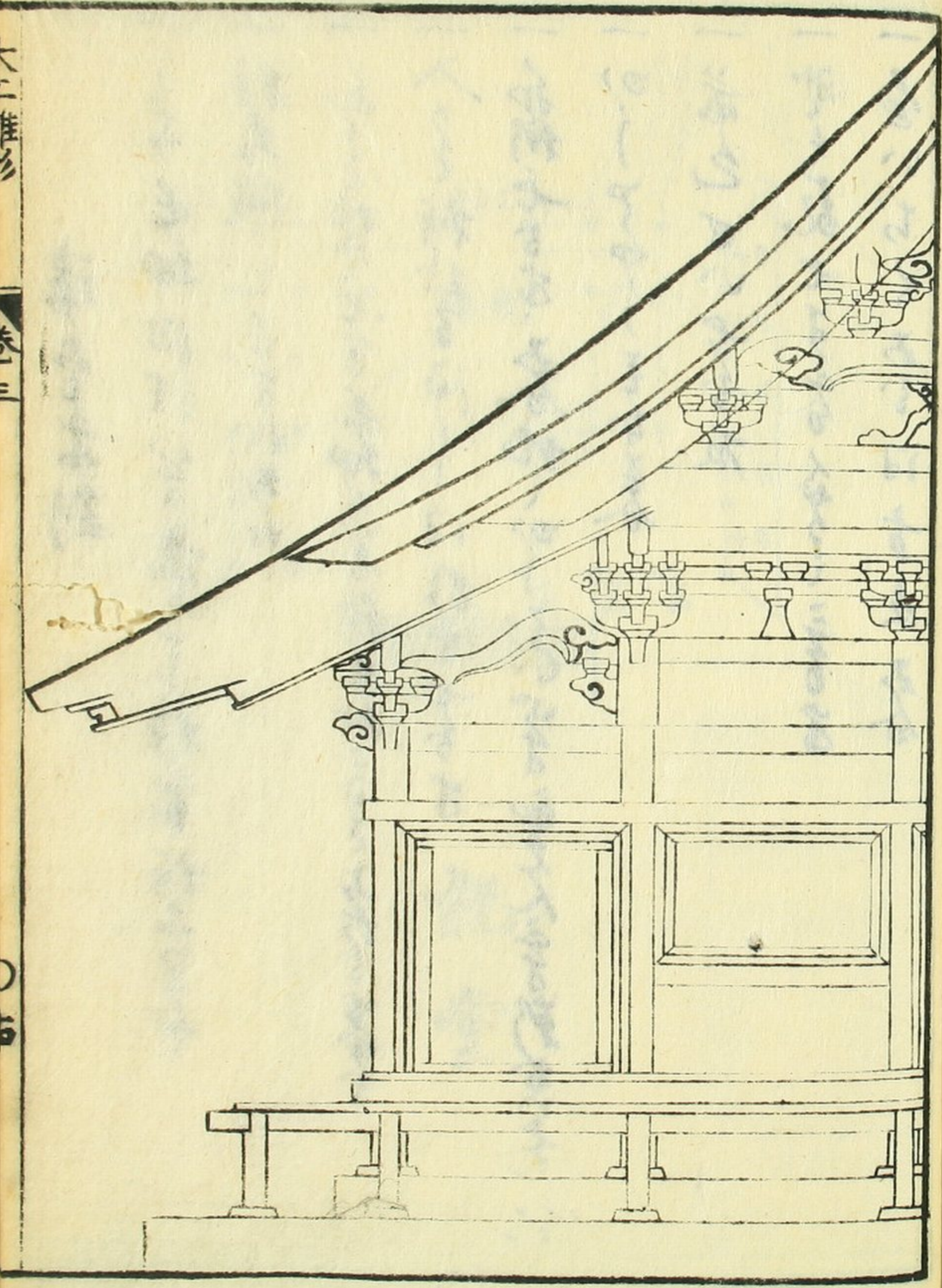
戒壇堂本創

一 なるか石はよりを押下のりせし後六一先こ ○ 柱を并中
 同しきますき方ひがへ入るし柱の計あり ○ 地をくまけ
 在るが所 ○ 地をせが所してを押しぬい柱なり
 一 九折のふたを折おいらせし地のうごらひをせし人とな
 乃ち縁の後に一ますなだらぬあり ○ ちくまを○地
 ちくを押しぬいせし柱なり ○ 地をせが所を柱とせし
 一 日九折のふたを折おいらせし一なり ○ 地をせが所を柱とせし
 配の後に一せしなり ○ 地をせが所を柱とせし
 中なる割るなり ○ 地をせが所を柱とせし
 ちり割るは地のうごらひをせし柱なり ○ 地をせが所を柱とせし
 押しぬいせし柱なり ○ 地をせが所を柱とせし

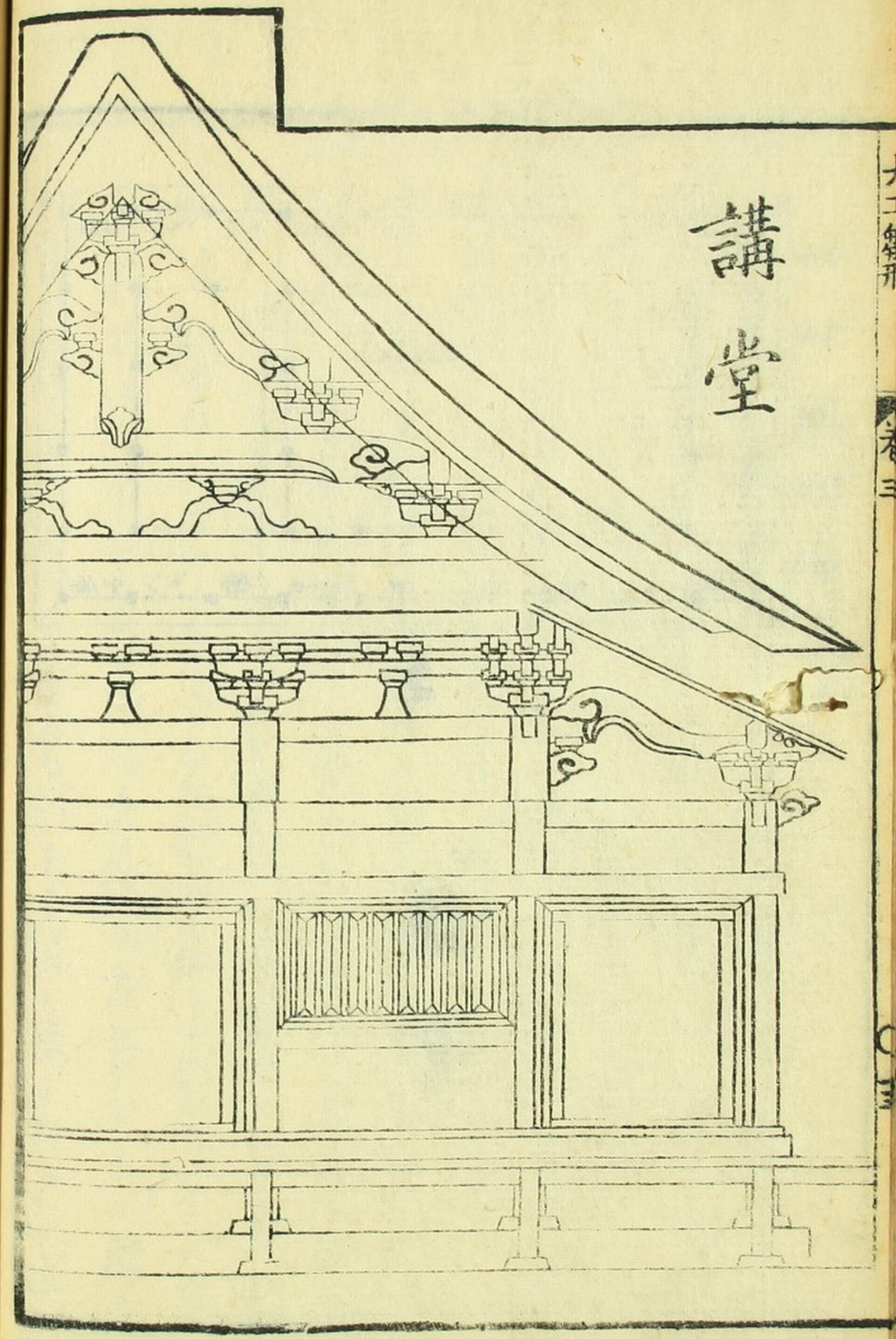


講堂

六二維多 卷三 〇三

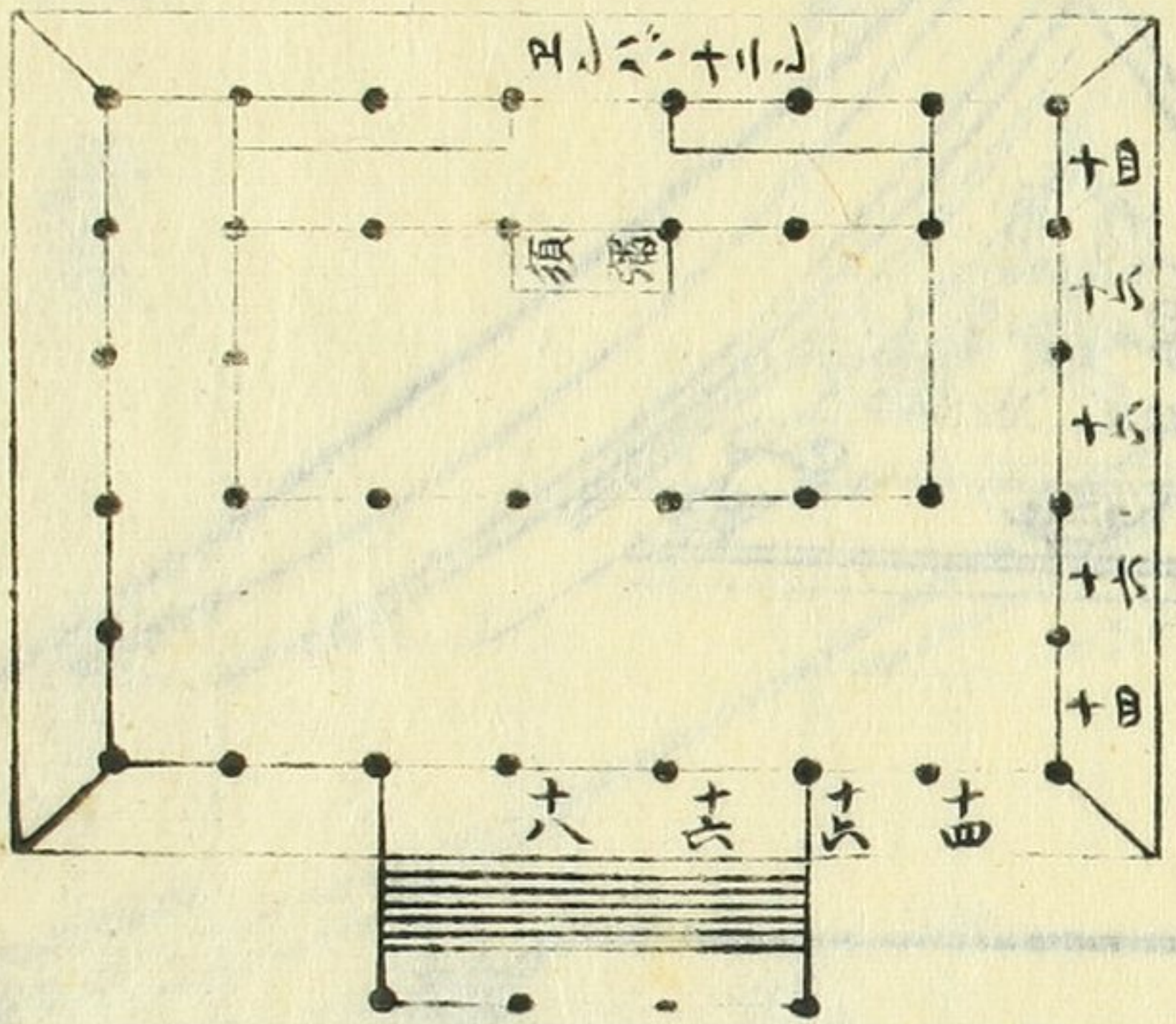


講堂



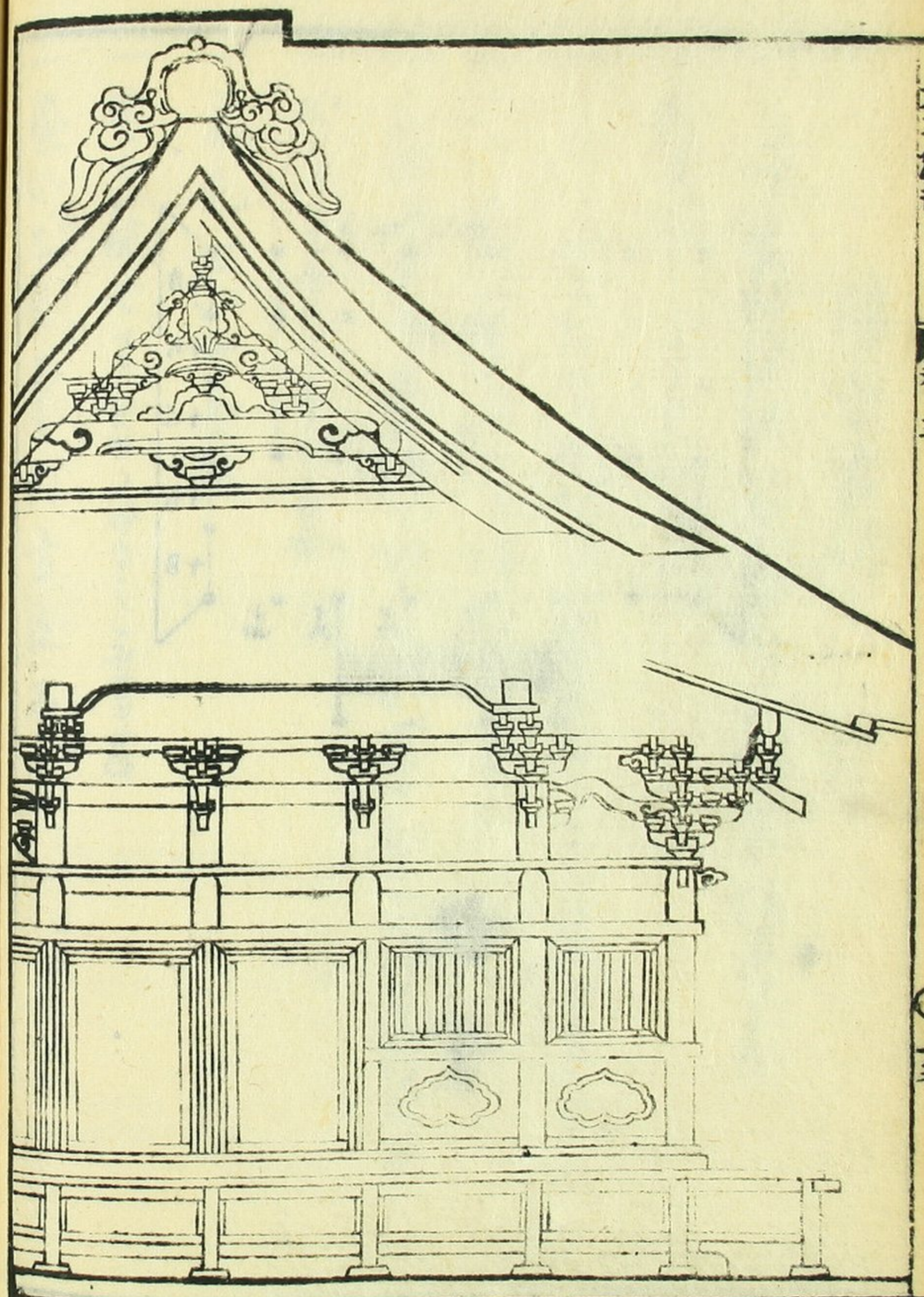
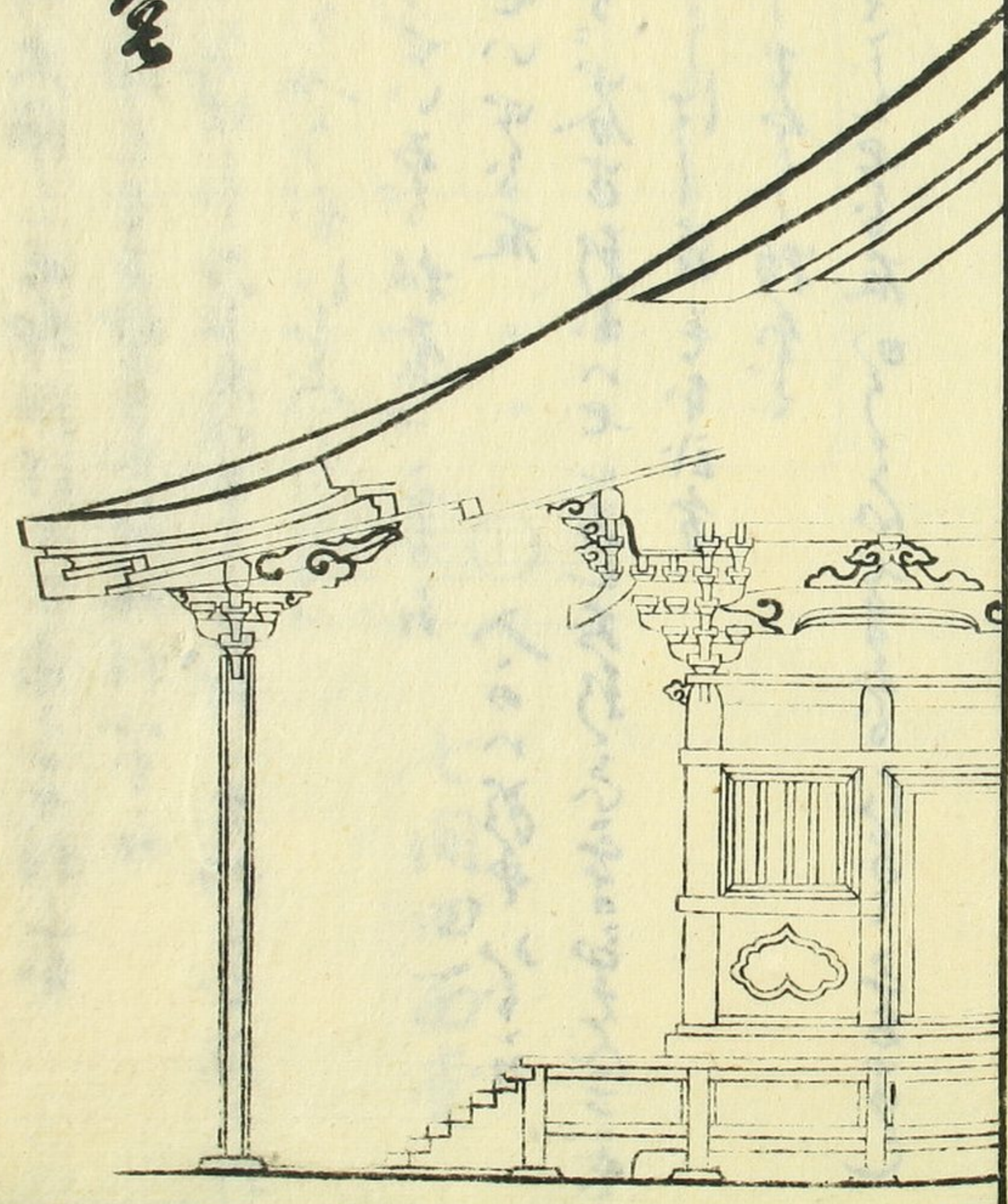
講堂本割

- 一 二子也押内法守森とて柱家板と半と
- 一 柱之間とてとて式あり
- 一 和とて板也七方也押とて柱とて半と上とて半と
- 一 入りとて柱式方押一日板也七方也
- 一 和板七方也とて春地(四)とて半と押とて半と
- 一 四(一)とて半ととて半と
- 一 前包也い七方也
- 一 和とて板也七方とて半ととて半と
- 一 和いぢくも半日方とて半と



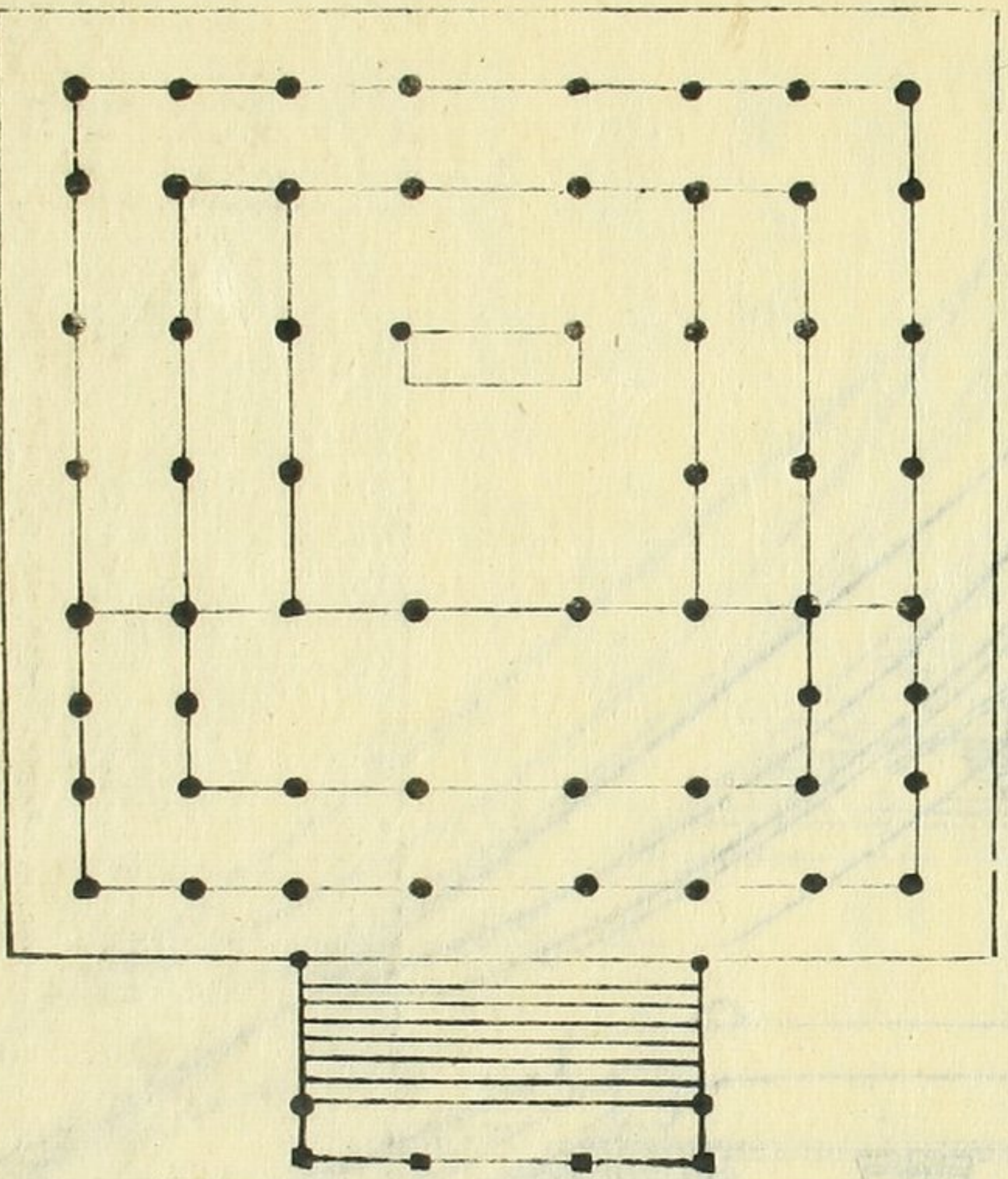
説堂

祝堂

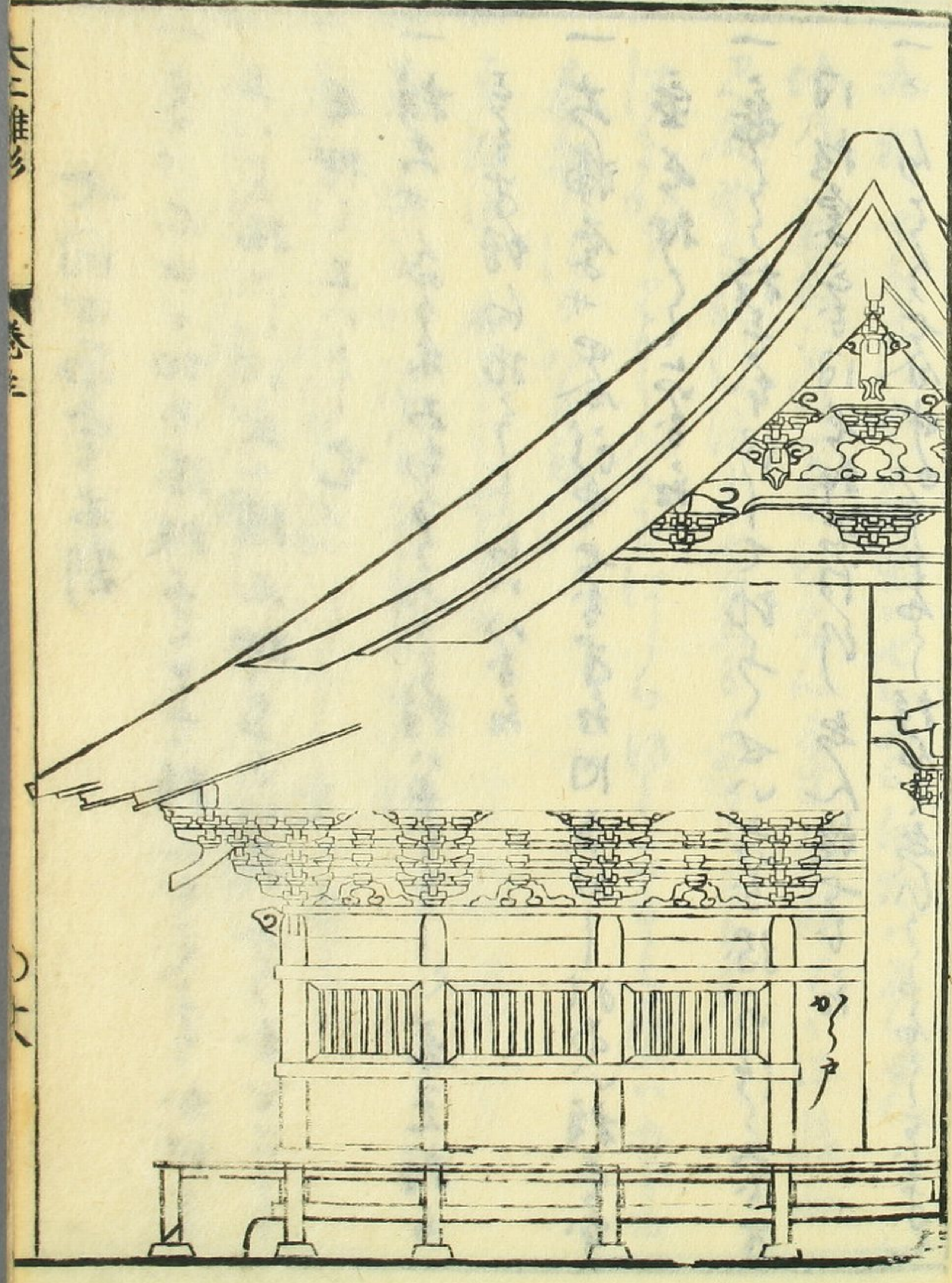


祝堂木割

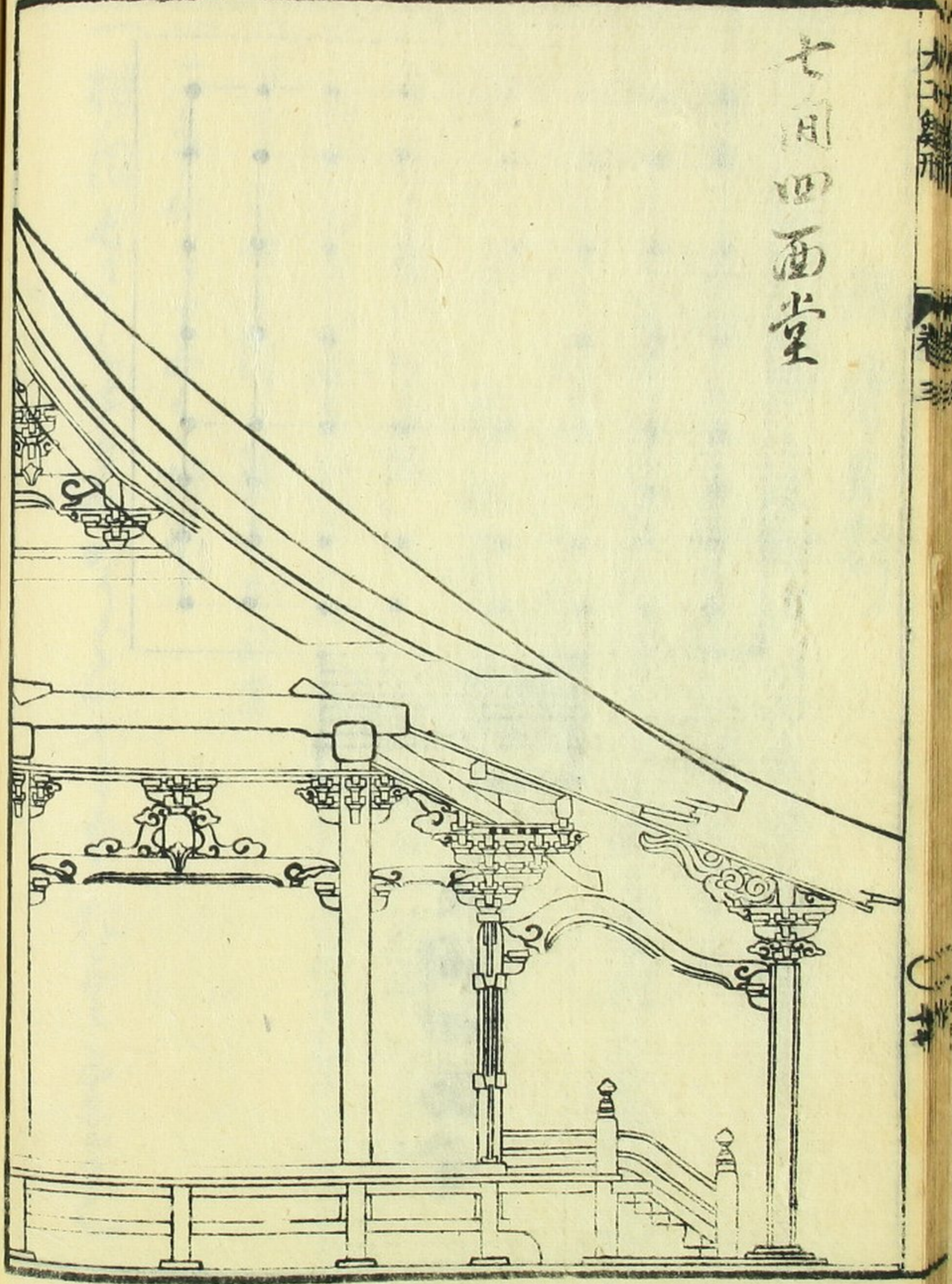
- 一 三斗四間は太間と申す押間は七才太三斗四柱を以
- 一 柱太さ大間と申す是れ白檜柱を以て
- 一 柱太さ七斗三寸一斗五分太申す此柱は白檜柱を以て
- 一 三斗四上りをもつて分はし
- 一 函ははらうさいま板厚サを以て
- 一 上太ささいまを以て
- 一 卯釘七斗五分太申す此釘は七斗五分太申す釘を以て
- 一 釘ははらうさいまを以て
- 一 釘ははらうさいまを以て
- 一 釘ははらうさいまを以て



七間四面堂



二維多
卷三



七間四面堂

九二
卷三

七回四面堂本割

一 言サ 石口切め縁板とて早を指三本と云ふりかぎ一
上りと指六に立立縁板押さる其よりかきこ一
を押し上りて定々

一 柱太サ ぬり木ありて入り柱のまきまき一と本光柱ら
まきまき増白物一とらひかき

一 大輪厚サ 四分厚也七分厚也内より一とあり柱まき
並を押し上りて定々

一 垂り 柱まき一とて地うへに上りて縁のほりまき
日板まき日板押板日板入ん柱まき

一 一 ちりり七分厚のくちかか柱まき

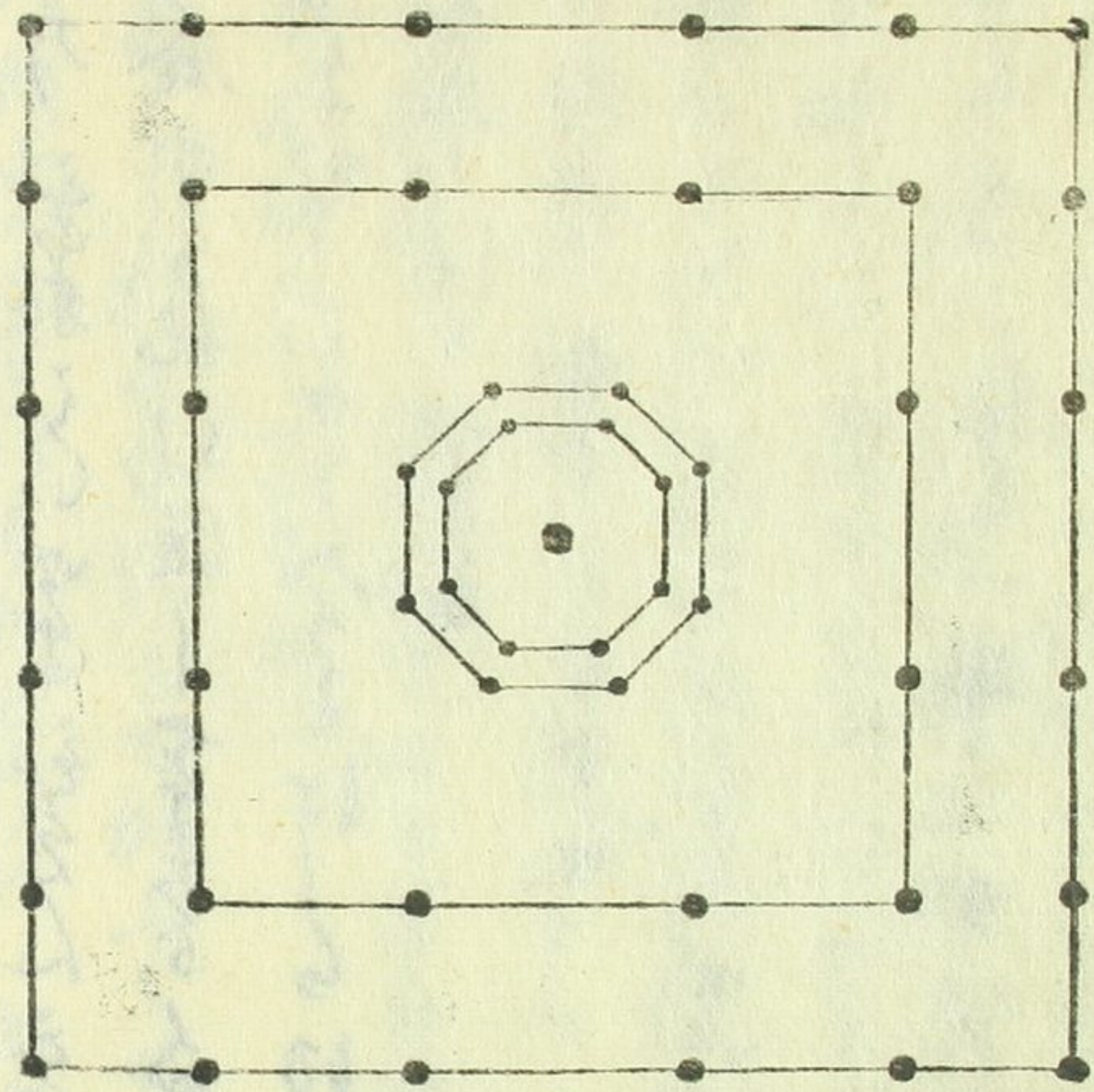
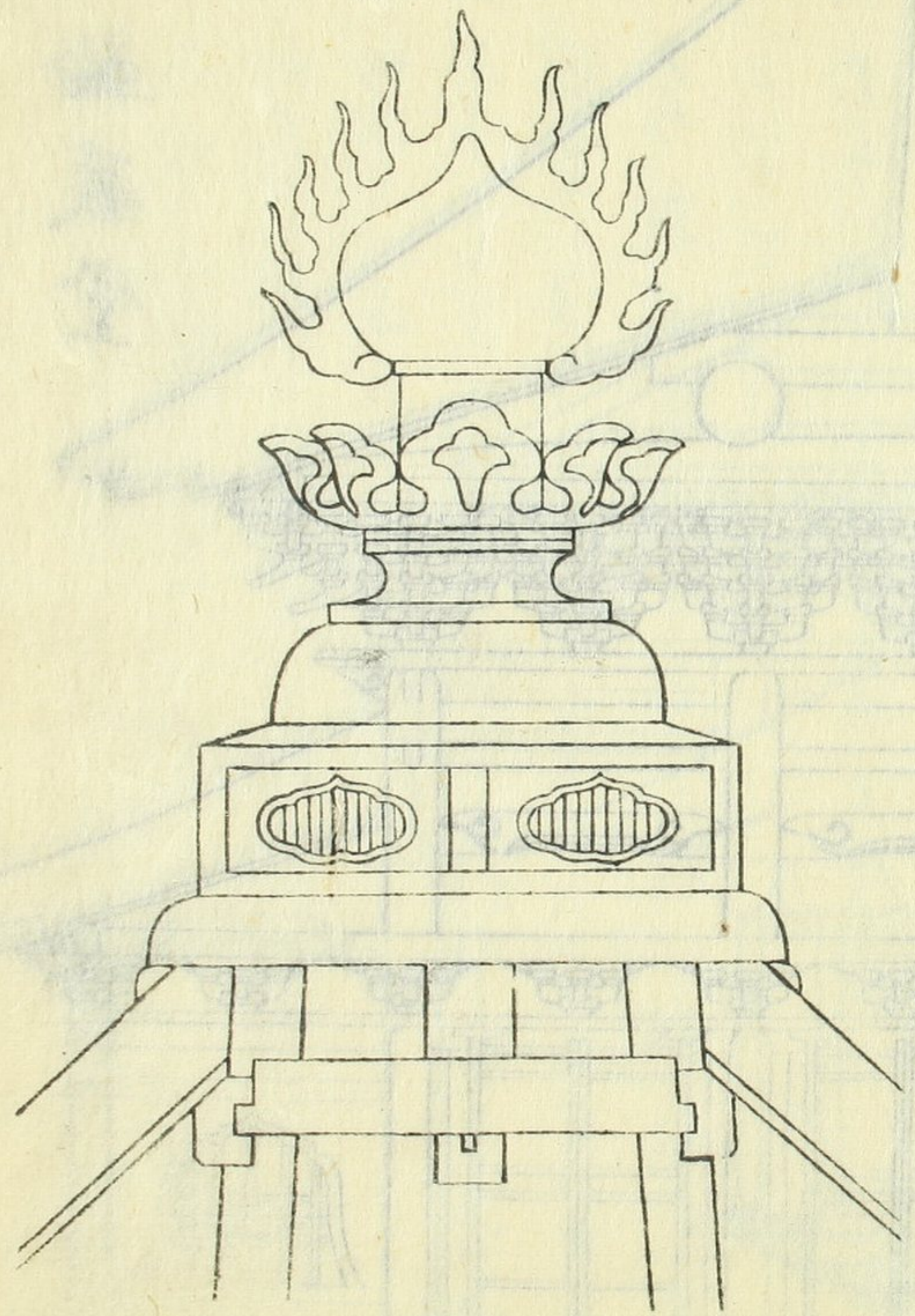
一 丸板 七分厚のまき板出い七とあり白物ありて

一 地乃 新木とて四寸と云ふ一と寸白群すは縁板
足合時より記引後一七寸と云ふありて定々

一 けまのく 尺中入りとけらゆぐ二寸と云ふありて
素平はくひかき

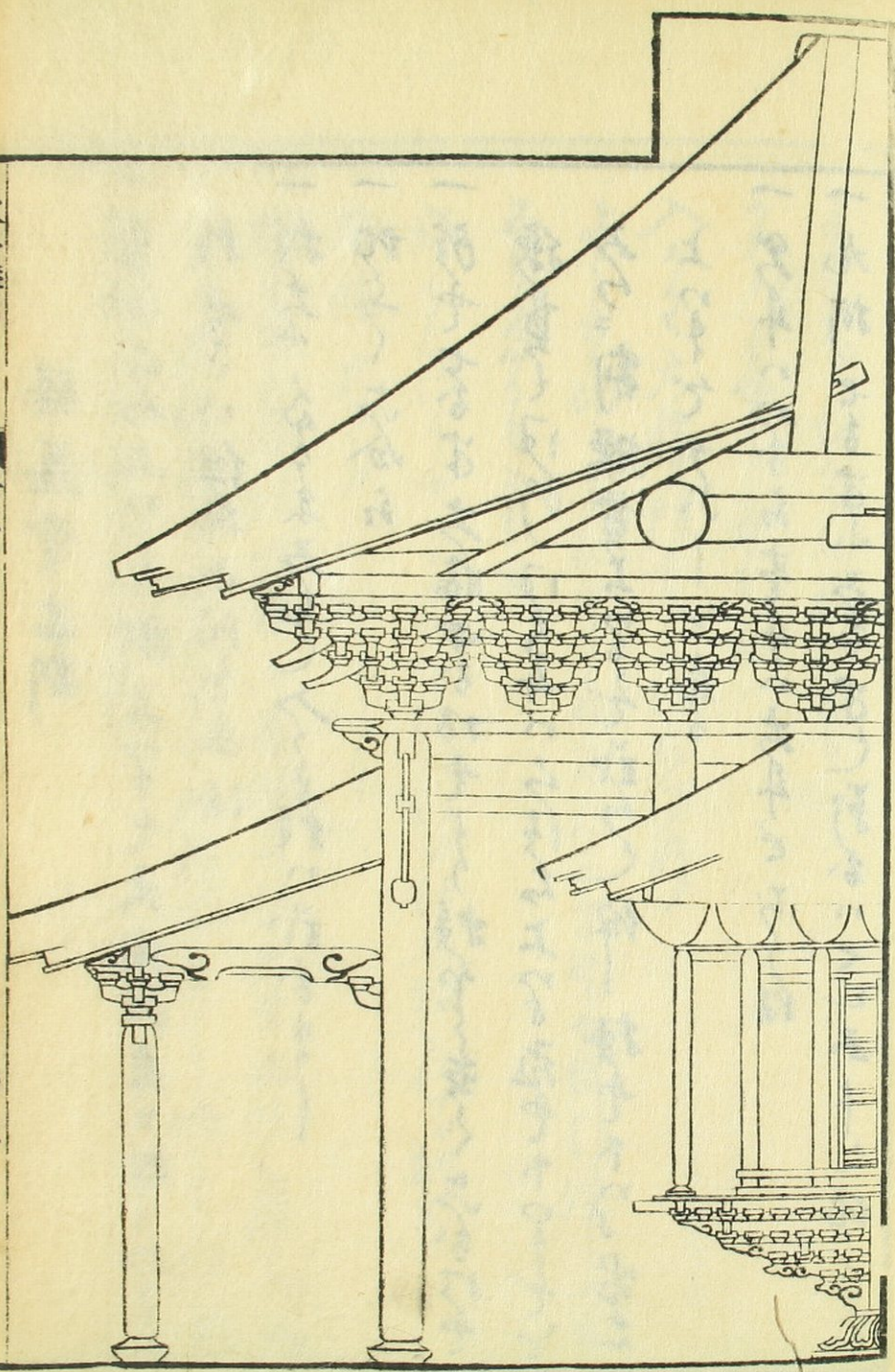
一 一 ぬ中 七寸と云ふ七かき

一 一 角 七寸と云ふはちと云ふありて
一 一 五寸と云ふはちと云ふありて定々
一 一 のらたうはちの掛くサリてあり

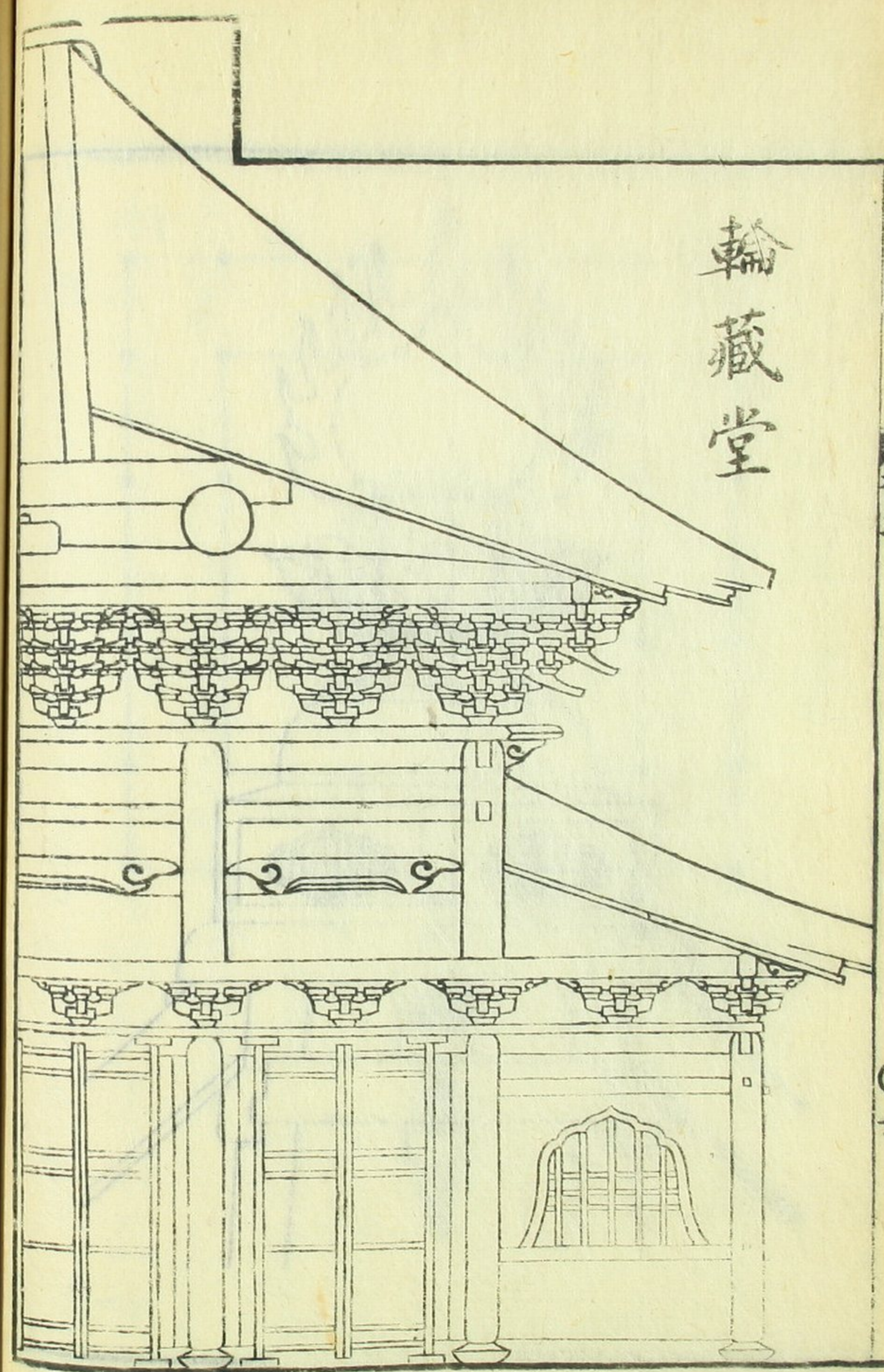


十六 十八 廿七 十八 十六

福蓋堂



輪藏堂



痛花堂本割

- 一 三三三三上りり柳上りりぞ大回紙をの俣へ入る
- 一 柱をさへ組物と回を立は
- 一 柱を中より本を中へ入るを組の式をまじ
- 一 地をくさ分を
- 一 頭を七を本大痛四を中をより柱をさへさくを中を
- 一 縁貫をよりりはさ中へはさ上りる飛せ下りるぞと
- 一 むらゝ割腰貫よりりぞさくは俣へ柱を下りる當た
- 一 上のまがてすいーとさる
- 一 大身への分を本身へ大身とちり程
- 一 丸柳ともすふみかすこおるかいせこふーと地へん

さすかすん式すか

ううと中へ九分を

入る大痛柱をさへはさ白の

よきと地へは記四もさす人へさす時を縁引後へさす

あふんかすこさす

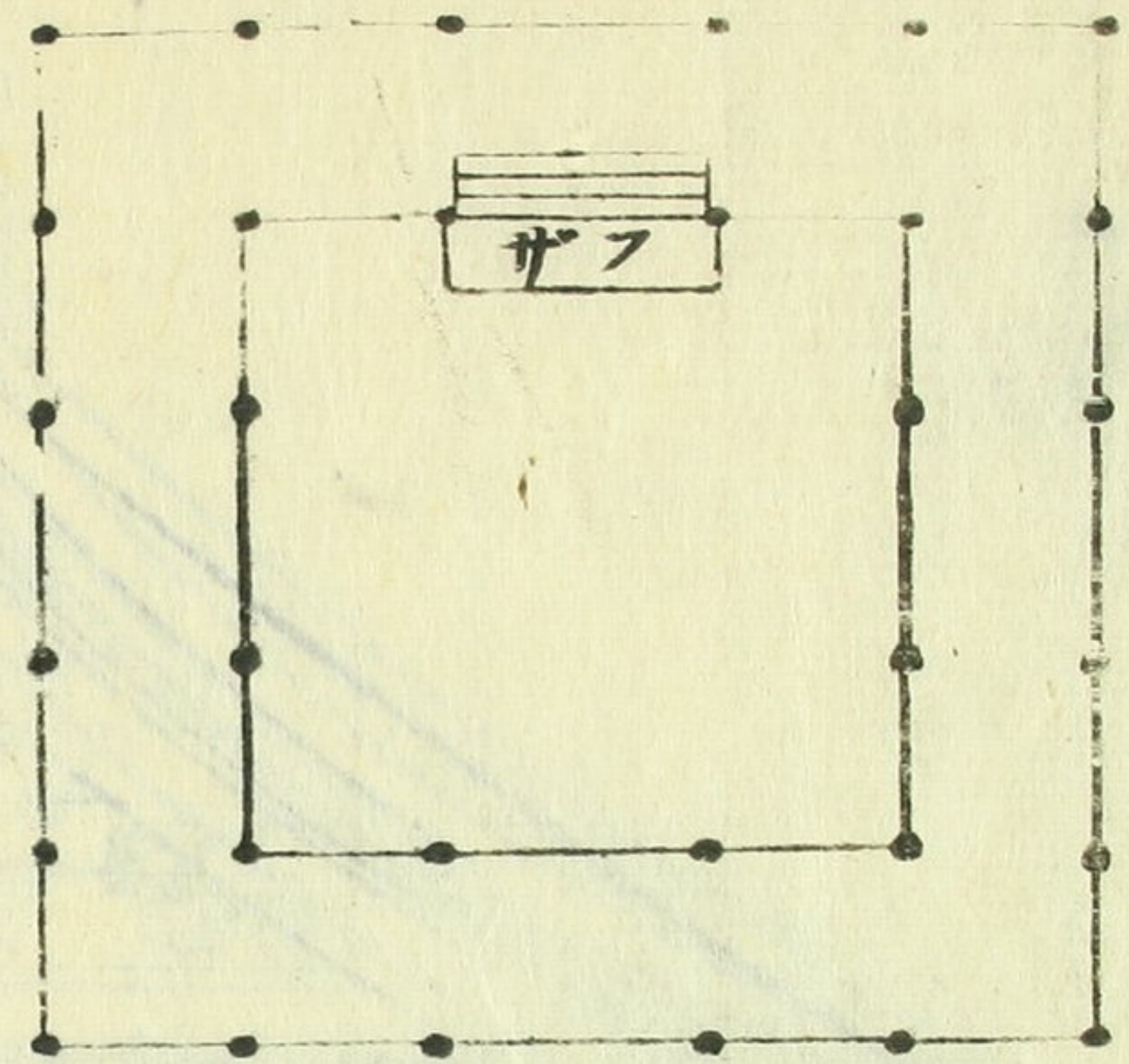
一 海へしりり中へ本白のりおるおおとハッ割く

一 同痛を中へ回程けして

一 柱をさす分はは初め長押より分をさす内はく縁へさす
 石の分大痛をち本上りりぞ柱をさ其より地よりりを
 組物をささるより上りり

大正 御用

六六六六六



但し裏ノ間十八と四倍

六六七六六

法堂

法堂本割

- 一 柱又サ中ノ間おてすかど
- 一 入かこ柱ハ式分
- 一 糸うりこもささた口車柄下は紐也三番半と五
- 一 地よりせい六分上の四分
- 一 漆垂中五分半三分半
- 一 平柄中八分半五分半
- 一 大ノ中八分と五分と三分一又五分と四分と四分
- 一 室かーら中五分半三分半
- 一 入かこ平柄五分半九分は又五分と五分と五分半五分

一 雪の合ハも並大者、雪梅重合極長か貫大サ口以
 一 内窓より記大寸窓を、至出人二寸式分此、ノ至の前後ニ
 七寸取られたるニ分也

一 大燧之所、折中寸、入の極限、大分枝、ニ分也
 中下段、多九分

一 妻より梁極限、の極限、多八分

新撰人工雜歌三ノ巻終

